

DATASTREAM FOR OFFICE

データストリーム 基本コース

REFINITIV

Classroom Training Participants Guide

ワークショップの目的:

Datastream for office の基本的な操作方法の習得を目的とする。また出力例を通してさまざまコード検索機能を理解する。

ワークショップの内容:

1. Datastream for Office : エクセルアドイン機能
2. Datastream Navigator : コード検索機能
3. データの加工
4. チャート機能
5. サポート情報

目次

目次	3
Datastream for Office (DFO): エクセルアドイン機能の概要	4
ダウンロード機能①.....	6
ダウンロード機能②.....	14
Datastream Navigator の基本構造	16
データストリーム関数	26
Datastream Charting: チャート機能	30
参考資料	39

Datastream for Office (DFO) : エクセルアドイン機能の概要

Datastream for Office (DFO) は、Microsoft®Excel にデータをダウンロードするための機能です。Microsoft®Excel を起動し、Thomson Reuters Datastream をクリックするとメニューが表示されます。ダウンロードの目的に応じてそれぞれのメニューを選択します。

Datastream for Office メニュー



データをダウンロードするためのメニュー

- Static Request
特定日のデータをダウンロードします。
- Time Series Request
データを時系列にダウンロードします。
- New Request Table
ダウンロード用テンプレートです。データを大量に取得する際に便利なツールです。

データ管理のためのメニュー

- Manage Requests > Request Manager
Static Request、Time Series Request で取得したデータの更新、修正を一括管理します。
- UCI Manager
User Created Indices（ユーザー作成指数）を管理します。

その他のメニュー

- Find Series
コード検索機能（Navigator）を起動します。
- New Request Table > Conversion Wizard
リクエストテーブルを最新のバージョンに変換します。
- Options
Datastream 上のあらゆる機能の設定をします。
- Contact Us
カスタマーサポートへ連絡するための、メールフォーマットが開きます。
- Infobase
Datastream のサポートサイトへアクセスします。

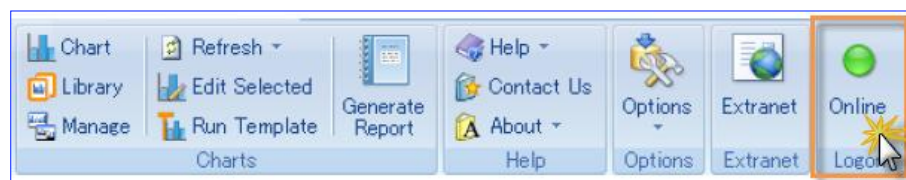
🚩 ログイン方法

Datastream for Office はバージョンにより、ログイン手順が下記の通り異なります。

DFO2.1:通信のためのメニューを利用してログイン

- Online

接続の On/Off を切り替えます。

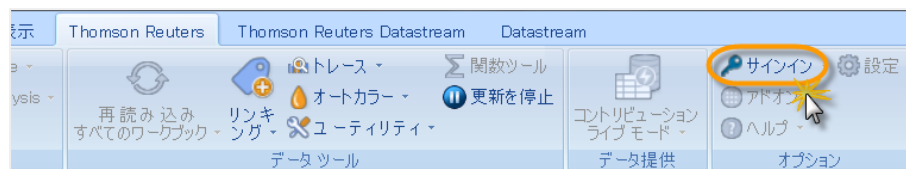


DFO3.0:EIKON エクセルアドインのログイン

DFO を使用する場合は必ず、Thomson Reuters メニューのサインイン ボタンより EIKON エクセルアドインへログインする必要があります。

オンラインになっている場合、全てのメニューがアクティブ表示されます。

※初期ログインの際には、ID・パスワードの入力が必要になります。

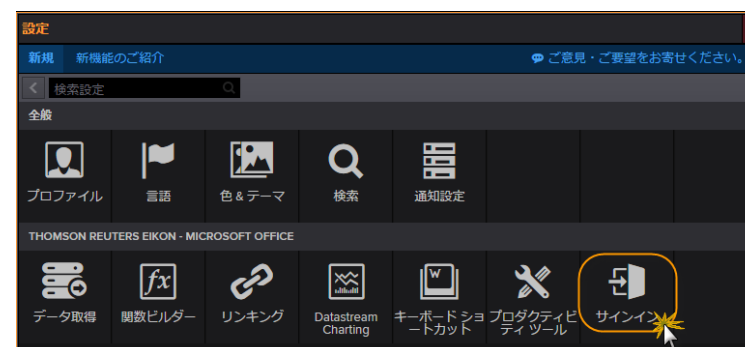


🔗 自動ログインを設定する手順(DFO3.0)

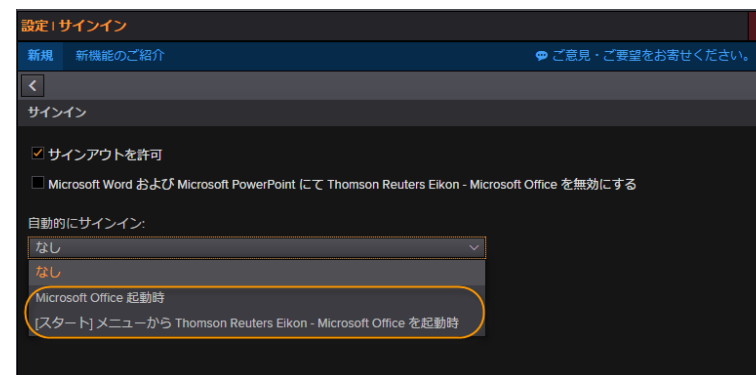
EIKON エクセルアドインへのログインを自動に設定することが出来ます。

＜設定手順＞

1. EIKON エクセルアドインメニューの【設定】を選択し、設定画面の「サインイン」を選択します。



2. 「自動的にサインイン」のプルダウンより、自動サインインをするタイミングを選択し、適用ボタンで設定を完了します。



ダウンロードの機能①

Time Series Request: 時系列のデータダウンロード : Thomson Reuters Datastream メニューから **Time Series Request** を選択し、入力フォームを開きます。

[入力フォーム]

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box. It has several sections: 'Request Details' at the top, 'Options' in the middle, and a 'Submit' button at the bottom right. Numbered annotations are as follows: 1. Points to the 'Series/List' dropdown menu which contains 'TOKYOSE'. 2. Points to the 'Datatypes/Expressions' dropdown menu which contains 'PI,RI,MV'. 3. Points to the 'Start Date' dropdown menu which is set to '-2Y'. 4. Points to the 'Frequency' dropdown menu which is set to 'Daily'. 5. Points to the 'Submit' button. Additionally, two buttons on the right side of the 'Request Details' section are circled: 'Find Series' and 'Datatypes'.

<入力項目>

- 1 系列コードの入力: コードの検索は **Find Series** をクリックし、ナビゲーターを起動して検索をします。

コードはカンマ区切りで複数入力を行うことができます。また、 ボタンをクリックし、セルを範囲指定することも出来ます。

- 2 データタイプコードの入力: コードの検索は、**Datatypes** をクリックし、ナビゲーターを起動して検索をします。

☞ データタイプの欄をblankに設定すると、デフォルトデータが出力されます。デフォルトのデータタイプは、出力するデータカテゴリによって異なります。

例) 株式: 修正済み終値/株式指数: 株価指数
債券指数: 総合収益指数 etc.

☞ データタイプのコードは、DATASTREAM HANDBOOK を参照し、手入力することも出来ます。

- 3 データの出力開始日と終了日を入力: データの出力期間を入力します。入力は、期間指定、または特定日指定のいずれかの書式を使用します。

☞ 日付の入力書式については、付録 p.38(「日付の入力方法」)を参照してください。

- 4 データの出力頻度を選択: 出力頻度を Frequency のドロップダウンから選択します。

- 5 **Submit** をクリックし、データのダウンロードを実行します。

📖 **例題 1** : TOPIX の株価指数を過去 1 年間出力します。

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box. The 'Request Details' section has 'Series/List' set to 'TOKYOSE' (annotated with 1), 'Datatypes/Expressions' is blank (annotated with 2), 'Start Date' is '-1Y' (annotated with 3), and 'End Date' is blank (annotated with 4). The 'Options' section has 'Display Row Titles', 'Display Column Titles', 'Display Headings', and 'Display Code' checked. The 'Display Expression' is '1st Series & Description', 'Display Datatype' is 'Description', 'Embed Formula' is checked, and 'TS Format' is 'Yearly-Date'. The 'Submit' button is circled and annotated with 5.

＜出力手順＞

はじめに Thomson Reuters Datastream メニューから **Time Series Request** を選択し、入力フォームを開きます。

- 1 **Series/Lists** の入力領域へ直接 TOPIX と入力し、予測結果より該当する系列を択します。

🔗 コード予測機能:

入力した内容から 5 つの系列を予測し(オートサジェスト機能)、下図のように結果を表示します。結果に該当する系列がない場合は、“Search for TOPIX in Datastream Navigator”を選択すると、ナビゲーターへアクセスすることが出来ます。

This screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box with 'TOPIX' entered in the 'Series/List' field. A dropdown menu is open, displaying search results: 'Search for TOPIX* in Datastream Navigator', 'TOPIX (in Equity Indices)', 'Japan, Tokyo SE, TOPIX Index, Price Return, End of Period (in Equity Indices)', 'TSE TOPIX (in Constituent Lists)', 'TOPIX Banks (in Equity Indices)', and 'TOPIX Insurance (in Equity Indices)'.

- 2 **Datatypes** はblankのままにします。
- 3 **Start Date** に-1Yと入力し、**End Date** はblankにします。
- 4 **Options** の **Display Row Titles/Column Titles/Headings/Display Code** の 4 つにチェックを入れ、それぞれの項目をデータと共に表示させます。
※次項参照
- 5 **Submit** をクリックし、ダウンロードを実行します。

📌 時系列データの表示方法

Datastream では、株価などの時系列データは月曜日～金曜日で表示します。祝祭日のデータは、前日の値を繰り越し表示します。（デフォルト設定）

🔗 時系列データを 7 日表示（月～日）に設定する方法：

Frequency の入力領域に、7D と入力します。

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box. In the 'Request Details' section, the 'Series/List' is set to 'TOKYOSE'. The 'Frequency' dropdown menu is set to '7D' and is highlighted with an orange circle. Other options like 'Start Date' and 'End Date' are also visible.

🔗 祝祭日のデータを繰り越し表示しない設定方法：

データタイプのコードに“#S”を付けて入力します。

入力例）株式指数を出力する場合 PI ⇒ PI#S

株価を出力する場合 P ⇒ P#S

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box. In the 'Request Details' section, the 'Datatypes/Expressions' field is set to 'PI#S' and is highlighted with an orange circle. The 'Series/List' is still 'TOKYOSE'.

🔗 オプション設定 1. データの出力形式の設定：

オプションメニューの **Display Row Titles**, **Display Column Titles**, **Display Headings**, **Display Code** にチェックを入れると、項目がデータと共にダウンロードされます。また **Hyperlink to Series Metadata** へチェックを入れると、コードにリンクが付き、データの詳細画面へアクセスすることが出来ます。

（ 5 つの項目をダウンロードした場合の出力例）

A	B	C	D	E	F
Start	2015/12/04				
End	2017/12/05				
Frequency	D			Headings	
Name	TOPIX - PRICE INDEX			Column	
Code	TOKYOSE			Code	
				Row	
2017/12/05	1790.97				
2017/12/04	1786.87				
2017/12/01	1796.53				
2017/11/30	1792.08				
2017/11/29	1786.15				

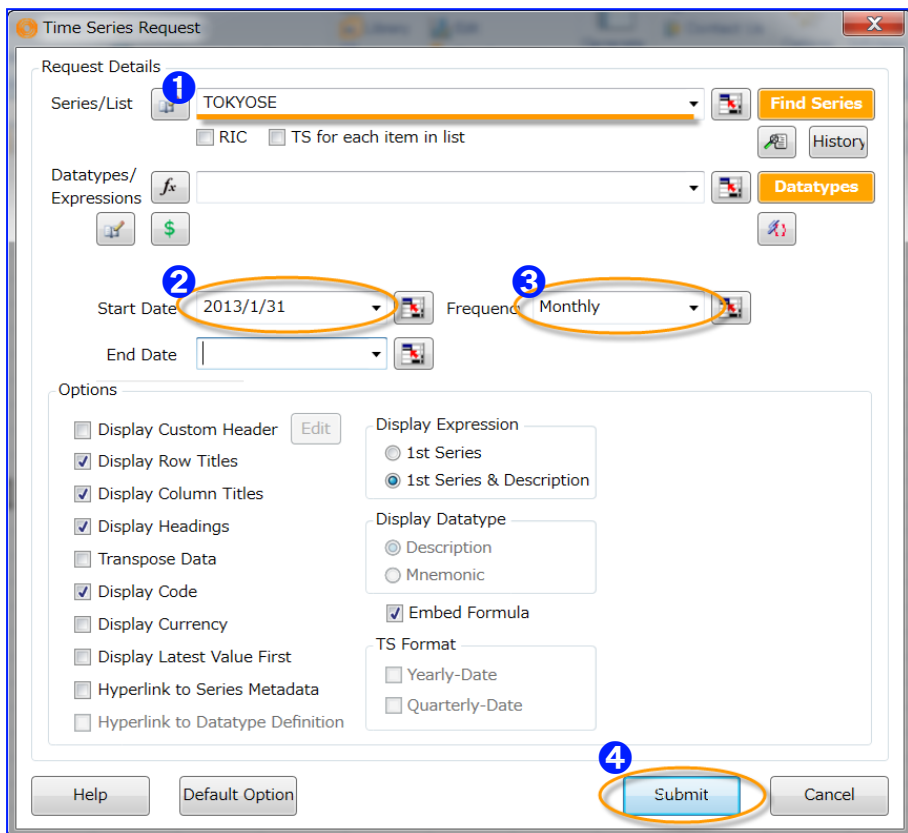
🔗 オプション設定 2. データの降順／昇順設定：

Datastream では時系列データを昇順でダウンロードします。（デフォルト設定）

降順に並べ替える場合は、オプションメニューの **Display Latest Value First** にチェックを入れます。

The screenshot shows the 'Options' dialog box. The 'Hyperlink to Series Metadata' checkbox is checked and highlighted with an orange circle. The 'Display Latest Value First' checkbox is also checked and highlighted with an orange circle. Other options like 'Display Row Titles' and 'Display Column Titles' are also checked.

 **例題 2** : 例題 1 で出力したデータを編集し、2013 年 1 月からの月末値を出力します。



<出力手順>

例題 1 で出力したデータの DS 関数が入っているセルを選択し、Thomson Reuters Datastream メニューから **Edit Request** をクリックして、例題 1 で使用した入力フォームを開きます。

既存の入力フォームを編集する場合は、修正箇所のみ変更します。

① Series/Lists や **Datatypes** の入力領域は例題 1 のままにします。

② Start Date へ 2013/1/31 と入力し、**End Date** はblankにします。

 Datastream で月末値を出力する場合は、必ず Start Date へ月末日を入力し、月次でデータをダウンロードします。

③ Frequency を Monthly へ変更します。

④ Submit をクリックし、ダウンロードを実行します。

 データの出力頻度を調整する場合のルール：

日次で収録されているデータを調整する場合：

- ① 頻度を週次にする： Start Date へ該当する曜日の日付を入力し、Weekly で出力します。
- ② 頻度を月次にする： Start Date へ該当する日付を入力し、Monthly で出力する。例： 月末値であれば、月末日を入力する。
- ③ 頻度を年次にする： Start Date へ該当する日付を入力し、Yearly で出力する。例： 年初来値であれば、2000/1/4 などと入力する

📖 **例題 3** : S&P500 と TOPIX の時価総額をドル建てで 2011 年 1 月より出力します。

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box with the following details:

- Request Details:**
 - Series/List:** S&PCOMP,TOKYOSE (Annotation 1)
 - Datatypes/Expressions:** X(MV)~U\$ (Annotation 2)
 - Start Date:** 2011/1/31 (Annotation 3)
 - Frequency:** Daily (Annotation 3)
- Options:**
 - ☐ Display Custom Header
 - ☒ Display Row Titles
 - ☒ Display Column Titles
 - ☒ Display Headings
 - ☐ Transpose Data
 - ☒ Display Code
 - ☐ Display Currency
 - ☐ Display Latest Value First
 - ☐ Hyperlink to Series Metadata
 - ☐ Hyperlink to Datatype Definition
 - Display Expression:** 1st Series & Description
 - Display Datatype:** Description
 - ☒ Embed Formula
 - TS Format:** Yearly-Date
- Buttons:** Find Series, Datatypes, History, Submit (Annotation 4), Cancel, Help, Default Option

<出力手順>

はじめに Thomson Reuters Datastream メニューから **Time Series Request** を選択し、入力フォームを開きます。

- 1 S&P500 と TOPIX のコードをナビゲーターで検索し、**Series/Lists** へ入力します。コードの検索は **Find Series** をクリックし、ナビゲーターを起動して検索をします。

📖 ナビゲーターの検索手順

- 1) フリーテキストボックスへ“S&P”と入力し、**Search** ボタンをクリックし、検索を実行します。
- 2) 結果画面の左側にある **Refine Search** 欄の **Category** より **Equity Indices** のリンクをクリックし、結果の絞り込みを行います。
- 3) 結果一覧より、S&P500 COMPOSITE を探し、☆印の左横のチェックボックスへ✓を入れます。
- 4) 続いて、フリーテキストボックスへ“TOPIX”と入力し、1~3 の手順に従い TOPIX を検索し、3 同様✓を入れます。
- 5) 最後に結果画面の左上段にある **Use** のリンクをクリックし、コードを入力します。

- 2 **Datatypes** へ時価総額のデータタイプコード MV を入力します。

📖 代表的なデータタイプのコードは、DATASTREAM HANDBOOK を参照し、手入力することが出来ます。 株式指数 p.7~

続いて、入力領域の下の **\$** マークをクリックし、**Currency List** 中のドロップダウンから **United States Dollar-US\$** を選択し、**Apply All** 又は **Apply Last/Selected** をクリックして計算式を挿入します。

- 3 **Start Date** へ 2011/1/1 と入力し、**End Date** は空白にします。
- 4 **Submit** をクリックし、ダウンロードを実行します。

✚ Datastream データの加工について

Datastream のデータは、独自の関数や計算式を用いて自由に加工し、出力することが出来ます。DataStream では加工・分析に便利な関数を数多く提供しています。

🔗 演算機能:

複数のコードを演算子でつないだ計算式を入力し、計算結果を出力することが出来ます。

使用可能な演算子:

- + 加算 ・ - 減算
- * 乗算 ・ / 除算
- * () 優先を示す括弧 ・ ~ 為替換算

🔗 データストリーム関数:

データストリーム独自の関数を使用し、データの加工や分析を簡単に行うことが出来ます。関数の利用は、HANDBOOK (p.25~) や DFO Expression、Function Selectorなどを参照します。
(関数の詳しい利用方法については p.27 を参照)

関数の一例:

- PCH#(X, 1M) : 1ヶ月の騰落率
- MAV#(X, 3M) : 3ヶ月の移動平均

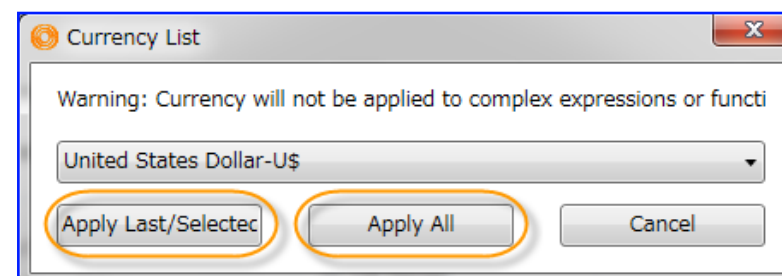
🔗 他通貨変換機能:

通貨換算機能を使用して、各通貨へ簡単に変換することが出来ます。通貨変換に使用される為替レートは WM ロイターの日々の終値です。

Currency List 機能は、通貨を選択した後、**Apply All**又は**Apply Last/Selected**で実行します。

Apply All: 入力されている全てのコードに対し、変換を実行します。

Apply Last/Selected: 入力されているコードの中で最後尾のコード、又は選択されたコードに対し、変換を実行します。



♠️ ご注意

Request Table においては変換機能は使用できないため、直接計算式を入力する必要があります。

例えば、あるデータの時価総額をドル建てにする場合、以下のような計算式を Datatype/Expressions の欄へ入力します。

入力例) X(MV)~U\$

📖 **例題 4**：日本の GDP(実績値、季節調整済)を過去 10 年間出力します。

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box. The 'Request Details' section contains the following fields and annotations:

- Series/Lists**: Set to 'JPGDP...D' (Annotation 1). Buttons 'Find Series' and 'History' are visible.
- Datatypes**: Set to 'fx' (Annotation 2). A 'Datatypes' button is visible.
- Start Date**: Set to '-10Y' (Annotation 3).
- Frequency**: Set to 'Quarterly' (Annotation 4).
- End Date**: Blank.
- Options**:
 - Display Custom Header**: Checked (Annotation 5). An 'Edit' button is next to it.
 - Display Row Titles**: Checked.
 - Display Column Titles**: Checked.
 - Display Headings**: Checked.
 - Transpose Data**: Unchecked.
 - Display Code**: Unchecked.
 - Display Currency**: Unchecked.
 - Display Latest Value First**: Unchecked.
 - Hyperlink to Series Metadata**: Unchecked.
 - Hyperlink to Datatype Definition**: Unchecked.
 - Display Expression**: Radio buttons for '1st Series' and '1st Series & Description' (selected).
 - Display Datatype**: Radio buttons for 'Description' and 'Mnemonic'.
 - Embed Formula**: Checked.
 - TS Format**: Radio buttons for 'Yearly-Date' and 'Quarterly-Date'.
- Submit** button: Circled with annotation 6.

♣ **経済データのコード体系について**

経済データは通常、アルファベットの 9 文字で構成されており、末尾はデータの種類や季節調整を表すインディケーターです。

(詳細は Handbook p.21 参照)

例) JPGDP...D = 実績値、季節調整済み
JPGDP...A = 現数値、季節調整前

＜出力手順＞

はじめに Thomson Reuters Datastream メニューから **Time Series Request** を選択し、入力フォームを開きます。

- 1) 日本の GDP のコードをナビゲーターで検索し、**Series/Lists** へ入力します。コードの検索は **Find Series** をクリックし、ナビゲーターを起動して検索をします。

📖 **ナビゲーターの検索手順**

- 1) フリーテキストボックスへ"Japan GDP"と入力し、**Search** ボタンをクリックし、検索を実行します。
- 2) 結果一覧より GDP(AR)を探し、Symbol のコード「JPGDP...D」のリンクをクリックし、コードを入力します。

- 2) **Datatypes** はblankにします。

📖 経済データを出力する場合は、**Datatypes** はblankにします。

- 3) **Start Date** に-10Y と入力し、**End Date** はblankにします。

- 4) **Frequency** を Quarterly へ変更します。

- 5) **Options** の **Display Custom Header** に✓を入れ、Edit 画面よりデータと共に出力する項目の設定をします。

出力項目：調整フラグ(EADJ),単位(ESUNT),ソース(ESRCE)

The screenshot shows the 'Add Datatypes to Custom Header' dialog box. The 'Editor' field contains 'ESUNT,ESRCE,EADJ'. The 'Selector' list contains 'EADJ', 'ESRCE', and 'ESUNT'. A '+' button is circled in the bottom right corner.

📖 出力する項目は **Datatypes** よりナビゲーターへアクセスし、検索します。該当する項目に✓を入れ、Use をクリックして入力領域へコードを入れます。最後に右下の＋マークで Selector へコードを移動させ、OK で決定します。

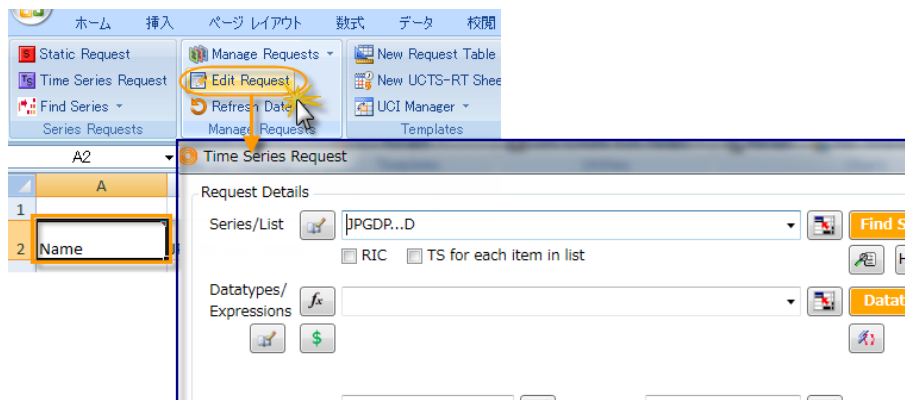
- 6) **Submit** をクリックし、ダウンロードを実行します。

データの更新と修正

出力したデータの更新と修正は、Thomson Reuters Datastream メニューから、それぞれの機能を選択し、実行します。

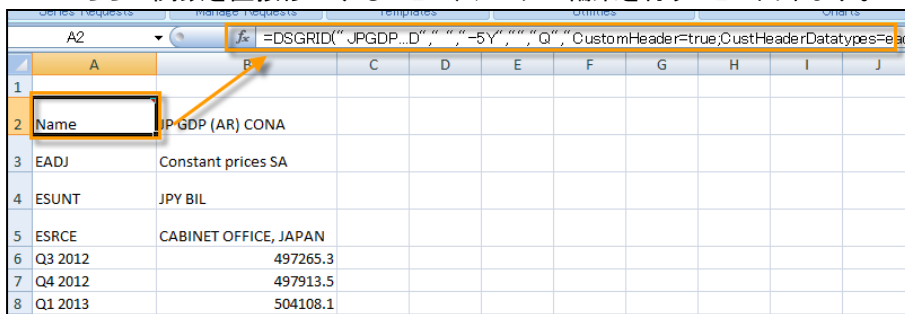
データの修正:

データの修正は、DSGRID 関数が入ったセルを選択した状態で、Thomson Reuters Datastream メニューの **Edit Request** を選択し、既存の入力フォームより修正する条件を変更します。



関数バーからの修正:

DSGRID 関数の入ったセルを選択すると、関数バーに関数が表示されます。こちらの関数を直接修正することで、データの編集を行うことができます。

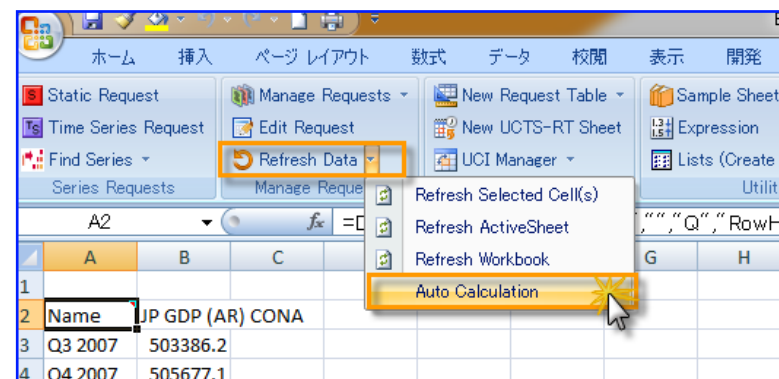


データの更新:

データの更新は、DSGRID 関数が入ったセルを選択した状態で Thomson Reuters Datastream メニューの **Refresh Data** をクリックし、更新を実行します。

自動更新の設定は、Refresh Data の横の下向き矢印を展開し、Auto Calculation をクリックします。(ブック毎の設定)

リクエスト毎の自動更新は、入力フォームの Options より設定することができます。



Request Manager からのリクエストの更新や修正:

Request Manager を使用すると、ブックに含まれるリクエストをまとめて更新や修正を行うことができます。

Request Manager は、Thomson Reuters Datastream メニューの **Manage Requests** をクリックし、起動します。

<Request Manager のアクションメニュー>

Go To: ブック内のリクエストの確認 **Refresh:** リクエストの更新

Edit: リクエストの修正

Select All: 全リクエストの選択

Delete: リクエストの削除

ダウンロードの機能②

Static Request: 特定日のデータダウンロード: Thomson Reuters Datastream メニューから **Static Request** を選択し、入力フォームを開きます。

＜出力項目＞

- ① 系列コードの入力: コードの検索は **Find Series** をクリックし、ナビゲーターを起動して検索をします。
 - コードはカンマ区切りで複数入力を行うことができます。(ただし、リストコードを入力する場合は 1 コードのみ)
 - をクリックし、セルを範囲指定を行うことができます。
- ② データタイプコードの入力: コードの検索は、**Datatypes** をクリックし、ナビゲーターを起動して検索をします。
 - データタイプの欄を空白に設定すると、デフォルトデータが出力されます。デフォルトのデータタイプは、出力するデータカテゴリーによって異なります。

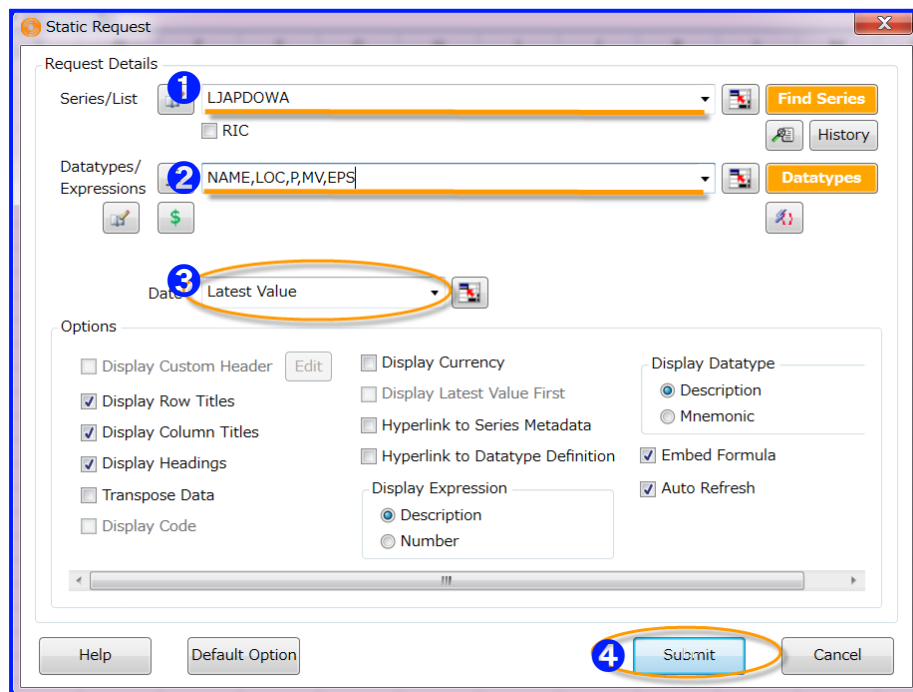
例) 株式: 修正済み終値／
株式指数: 株価指数／
債券指数: 総合収益指数 etc.

 - データタイプのコードは、DATASTREAM HANDBOOK を参照し、手入力することも出来ます。
- ③ 出力するデータの日付を入力: 出力する日付をドロップダウンから選択します。日付を指定する場合は、直接日付の入力をします。

Latest Value: 直近のデータを出力 **End of Month:** 前月末日のデータを出力
Intraday Value: 日中のデータを出力 **End of Quarter:** 前期末日のデータを出力
End of Year: 前年末日のデータを出力 **End of Week:** 前週金曜日のデータを出力

- ④ **Submit** をクリックし、データのダウンロードを実行します。

 **例題 5：** 直近の日経 225 の構成銘柄を出力し、各銘柄の銘柄名、証券コード、直近の株価、時価総額及び今期予想 EPS を出力します。



＜出力手順＞

はじめに Thomson Reuters Datastream メニューから **Static Request** を選択し、入力フォームを開きます。

- 1) 日経 225 のリストコードをナビゲーターで検索し、**Series/Lists** へ入力します。リストコードの検索についても **Find Series** をクリックし、ナビゲーターを起動して検索をします。
※Datastream では、構成銘柄を出力する際は必ずリストコードを使用します。(次項参照)

ナビゲーターの検索手順

- 1) フリーテキストボックスへ”Nikkei”と入力し、**Search** ボタンをクリックし、検索を実行します。
- 2) **Refine Search** 欄の Category より **Constituent Lists** (構成銘柄) のリンクをクリックし、結果をリストコードで絞り込みます。結果一覧より NIKKEI225 を探し、Symbol 列のコード「LJAPDOWA」のリンクをクリックし、コードを入力します。
- 2) **Datatypes** の入力領域へ銘柄名と終値のデータタイプコードをカンマ区切りで入力します。
入力例) NAME,LOC,P,MV,EPS
 代表的なデータタイプのコードは、DATASTREAM HANDBOOK を参照し、手入力することが出来ます。(株式 p.3～)
- 3) **Date** はデフォルト設定のまま **Latest Value** にします。
- 4) **Submit** をクリックし、ダウンロードを実行します。

データリストコードの検索方法とコード体系について

Datastream では、指数によって直近、または過去の構成銘柄を出力することが出来ます。構成銘柄を出力するには、リストコードと呼ばれる L で始まるコードを使用します。

リストコードのコード体系:

リストコードは 2 つのコード体系があります。

1. 直近のリストコード: L0000
2. 過去時点のリストコード: L0000mmyy

例) 東証銀行セクター指数の構成銘柄を取得する場合

1. 直近の構成銘柄: LTSEBANK
2. 2017 年 3 月末時点の構成銘柄: LTSEBANK0317

※直近の構成銘柄とは、前日の構成銘柄を取得します。

※過去の構成銘柄は月次の収録です。

リストコードの検索方法:

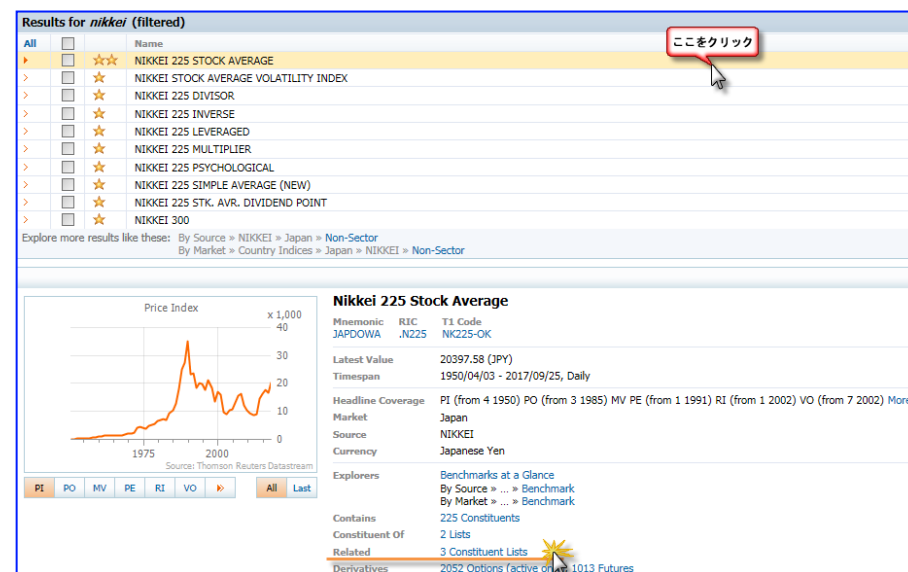
リストコードは Datastream Navigator より検索することが出来ます。またナビゲーター上では、**Constituent Lists** のカテゴリーに収録されています。

検索例 1

- 1) フリーテキストボックスで指数の検索を実行します。
 - 2) 次に画面右側の **Refine Search** 欄の Category より **Constituent Lists** のリンクをクリックし、結果をリストコードで絞り込んでコードを検索します。
- ▲ この検索方法は、直近のリストコードを検索するのに大変便利です。

検索例 2

- 1) **Explore** 検索、またはフリーテキスト検索にて、取得したい株式指数のコードを検索します。
- 2) 結果一覧より取得する指数の名前をクリックし、その詳細画面を開きます。(詳細画面の説明は p.18 を参照)
- 3) 詳細画面の **Related** より、**3 Constituent Lists** のリンクをクリックし、コードの一覧から直近、または過去のリストコードを検索します。



Nikkei225 リストコードの一覧

NIKKEI 225 STOCK AVERAGE			
All	Name	Symbol	
>	★★★ NIKKEI 225	LJAPDOWA	直近の構成銘柄
>	★★ NIKKEI 225	LJAPDOWA0811	過去の構成銘柄
>	★ NIKKEI 225	LJAPDOWA0817	

※この一覧より、過去の構成銘柄の収録期間が確認できます。この場合、Nikkei225 は 2011 年 8 月より 2017 年 8 月末時点の構成銘柄を収録しています。

Datastream Navigator の基本構造

データストリームのナビゲーターには、主に 2 つの検索機能とその他検索を助ける便利な機能が多くあります。

Series Search 機能

データストリームのシリーズコードの検索方法は、主にフリーテキスト検索と **EXPLORE** があります。それぞれの機能の特徴を理解し、取得したいデータにより使い分けて使用します。

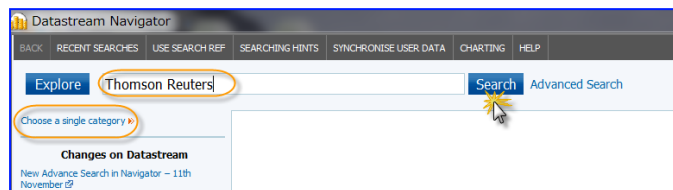
ナビゲーターは、**Time Series Request/Static Request** の **Find Series** ボタンからアクセスするか、または Thomson Reuters Datastream メニューの **Find Series** から直接アクセスすることができます。



フリーテキスト検索:

キーワード検索のためのツールです。ナビゲーターのスタート画面より利用することができます。

検索フィールドにフリーテキストを入力し、**Search** ボタンで検索を実行します。フリーテキストはデータを説明する記述を入力する他、ISIN コードやソース名なども入力できます。また、系列のコードのみが手元にあるような場合には、そのコードを入力し、逆引きでデータ名を検索することもできます。



※**Choose a single category** を利用し、先にデータのカテゴリーを選択することもできます。

EXPLORE:

データカテゴリーや国別、出所など様々な分類で収録されているデータの階層を追ってコードを検索することができます。

ナビゲーター画面の左上にある **EXPLORE** ボタンをクリックし、はじめにデータカテゴリーを選択した後、階層を展開し、データを検索します。



その他の便利な機能

結果画面:

フリーテキスト検索を利用した場合には、条件に一致する結果が関連性の高い順に 10 件ずつ表示されます。**EXPLORE** を利用した場合には、指定した階層の結果が一覧で表示されます。

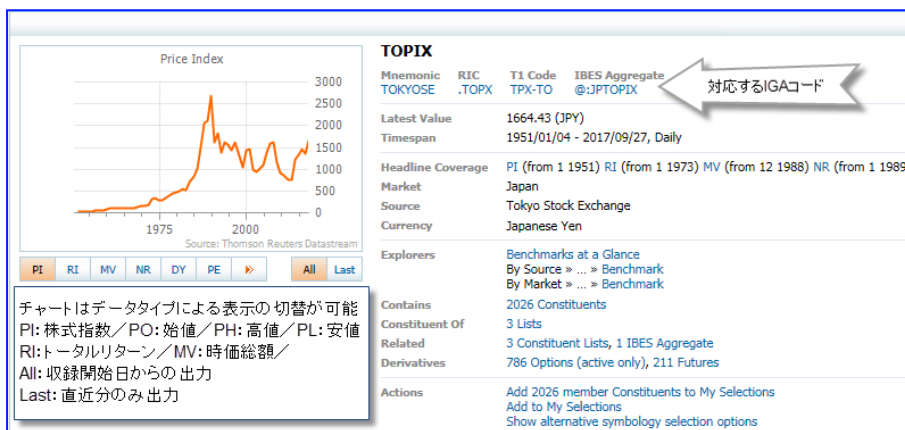
結果画面に表示されたシリーズの列をハイライトすると、チャートやそのデータの詳細情報が表示されます。

検索しているデータが見つかったら、Symbol 列のコードをクリックするか、複数のシリーズを選択する場合は、各シリーズの左端の口へチェックを入れ、最後に画面左上の **Use** のリンクをクリックし、コードを入力します。

Results for <i>topix</i>			
		Name	Symbol
☐	☆☆☆	TOPIX	TOKYOSE
☐	☆☆☆	TOKYO STOCK EXCHANGE - TOPIX (EP)	JPSHRPCF
☐	☆☆☆	TSE TOPIX	LTOKYOSE
☐	☆☆☆	TOPIX Banks Exchange Traded Fund Continuous Call	TOBJC.SERIESC
☐	☆☆☆	TOPIX Banks Exchange Traded Fund Continuous Put	TOBJC.SERIESP
☐	☆☆☆	TOPIX Exchange Traded Fund Continuous Call	TOPJC.SERIESC
☐	☆☆☆	TOPIX Exchange Traded Fund Continuous Put	TOPJC.SERIESP

データの詳細画面:

選択したデータに関連するあらゆる情報を得ることができます。



詳細画面の主な項目

Headline Coverage: データタイプの一覧を表示します。More のリンクからデータタイプの選択画面へアクセスします。

Explores: 選択したシリーズが含まれる全ての explore の階層を表示

Contains: 構成銘柄の一覧表示

Related: リストコードや関連コードの表示

Actions: 系列、および構成銘柄を My Selections へ追加します。

Refine Search:

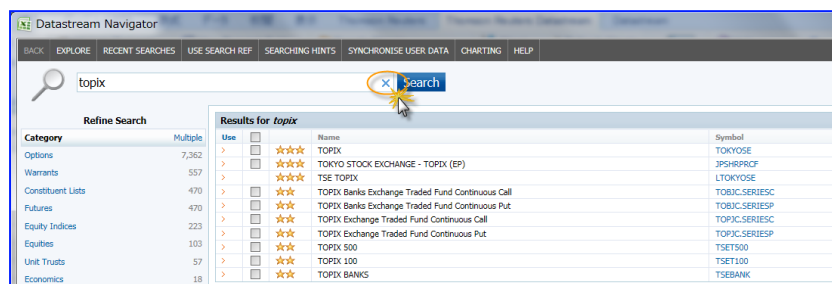
結果の画面左側: Refine Search を利用し、検索結果を段階的に絞り込むことができます。Market, Source, Currency, Adjustment などの項目で絞り込むことで、より早くデータを見つけることができます。

Multipleボタンをクリックすると、複数のアイテムを同時に選択、または除外することができます。

Stop Filteringをクリックすると、ソートを解除することができます。

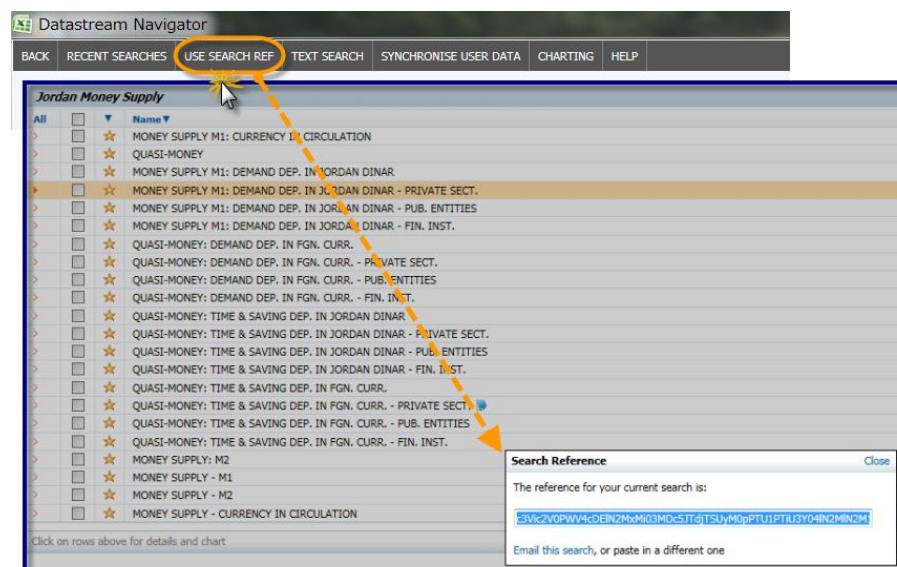
検索のクリア方法:

検索フィールドの右端にある×ボタンをクリックすると、検索した内容を一度クリアし、スタート画面に戻すことができます。



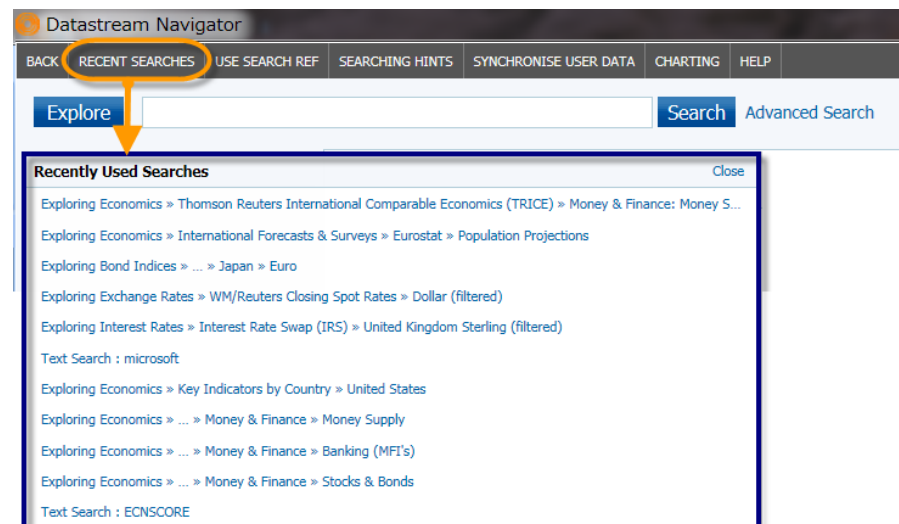
SEARCH Ref.機能:

ナビゲーターメニューの **USE SEARCH REF** をクリックすると、検索した内容のリファラを取得することができます。または、取得したリファラを **Search Reference** の検索フィールドへ貼り付ければ、結果画面を簡単に取得することができます。



RECENT SEARCHES:

ナビゲーターメニューの **RECENT SEARCHES** をクリックすると、直近に検索した結果画面を参照することができます。また、一覧のリンクをクリックすれば、結果画面を簡単に取得することができます。



📖 **例題 6：**日本の GDP(実績値、季節調整済)とその構成要素をそれぞれ過去10年間出力します。

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box with the following elements and annotations:

- 1** Points to the 'Series/List' dropdown menu containing the text 'JPGDP...D,JPCNPER.D,JPCNGOV.D,JPGFCF..D,JPINVCH.D,JPEXI'.
- 2** Points to the 'Datatypes/Expressions' dropdown menu, which is currently blank.
- 3** Points to the 'Start Date' dropdown menu, which is set to '-10Y'.
- 4** Points to the 'Frequency' dropdown menu, which is set to 'Quarterly'.
- 5** Points to the 'Submit' button at the bottom right of the dialog.

Other visible elements include the 'Find Series' and 'Datatypes' buttons, 'RIC' and 'TS for each item in list' checkboxes, 'History' button, 'Options' section with various checkboxes (Display Custom Header, Display Row Titles, Display Column Titles, Display Headings, Transpose Data, Display Code, Display Currency, Display Latest Value First, Hyperlink to Series Metadata, Hyperlink to Datatype Definition), 'Display Expression' section with radio buttons (1st Series, 1st Series & Description), 'Display Datatype' section with radio buttons (Description, Mnemonic), 'Embed Formula' checkbox, and 'TS Format' section with checkboxes (Yearly-Date, Quarterly-Date).

<出力手順>

はじめに Thomson Reuters Datastream メニューから **Time Series Request** を選択し、入力フォームを開きます。

- 1** **Find Series** をクリックし、ナビゲーターを使用して日本の GDP の構成要素のコードを検索します。

📖 ナビゲーターの検索手順

- 1) ナビゲーター画面の左上にある **EXPLORE** ボタンをクリックし、Exploring Categories を開きます。
- 2) **Economics > Key Indicators by Country > Japan** の順に展開し、結果画面を開きます。
- 3) **Refine Search** の Source を **Cabinet Office, Japan** に絞り込み、Adjustment を **Constant price, Seasonally Adjusted** (実績値、季節調整済) に絞り込みます。
- 4) 結果一覧より、**GDP, PRIVATE CONSUMPTION EXPENDITURE, GOVERNMENT CONSUMPTION EXPENDITURE, GFCF, CHANGES IN INVENTORIES, EXPORTS OF GOOD & SURVEICES, IMPORTS OF GOOD & SURVEICES** のチェックボックスにそれぞれチェックを入れ、Use をクリックして検索を実行します。

- 2** **Datatypes** は空白にします。
- 3** **Start Date** に -10Y と入力し、**End Date** は空白にします。
- 4** **Frequency** のプルダウンから **Quarterly** を選択します。
- 5** **Submit** をクリックし、ダウンロードを実行します。

📖 **例題 7** : G7 の失業率を 2008 年 1 月より Quarterly で出力します。

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box. The 'Request Details' section contains the following elements:

- Series/List**: A dropdown menu with the text 'CNUN%TOTQ,FRUN%TOTQ,BDUN%TOTR,ITUN%TOTQ,JPUN%' (Annotation 1).
- Datatypes/Expressions**: A dropdown menu (Annotation 2).
- Start Date**: A date picker set to '2008/01/01' (Annotation 3).
- Frequency**: A dropdown menu set to 'Quarterly' (Annotation 4).
- Options**: A section with various checkboxes and radio buttons for display options.
- Buttons**: 'Find Series', 'Datatypes', 'History', 'Submit', and 'Cancel' buttons.

Annotations 1 through 5 are placed over the following elements:

1. **Find Series** button.
2. **Datatypes** button.
3. **Start Date** dropdown.
4. **Frequency** dropdown.
5. **Submit** button.

＜出力手順＞

はじめに Thomson Reuters Datastream メニューから **Time Series Request** を選択し、入力フォームを開きます。

① **Find Series** をクリックし、ナビゲーターを使用して G7 の失業率のコードを検索をします。

📖 **ナビゲーターの検索手順**

- 1) ナビゲーター画面の左上にある **EXPLORE** ボタンをクリックし、Exploring Categories を開きます。
- 2) **Economics > Key Indicators by Economic Category > Labour Market > Unemployment Rate** の順に展開し、結果画面を開きます。
- 3) **Refine Search** の Market を Country Group で絞り込みます。Market 欄の右下の Country Group のリンクをクリックし、オプション画面より **G7 Group** を選択します。

The screenshot shows the 'Refine Search' dialog box. The 'Text' field is empty. The 'Category' field is set to 'Market'. The 'Source' field is set to 'Country Group'. The 'Global Unemployment Rate (List M#UNTOTX)' table is displayed with the following columns: All, Market, and Country Group. The 'Country Group' column is highlighted, and the 'G7 Group' is selected.

4) 結果一覧の全ての項目にチェックを入れます。(一番上のチェックボックスにチェックを入れると、自動的に項目全てにチェックが入ります。) 最後に Use をクリックして検索を実行します。又は、チェックボックスの左横の All のリンクをクリックし、検索を実行します。

② **Datatypes** はブランクにします。

③ **Start Date** に 2008/1/1 と入力し、**End Date** はブランクにします。

④ **Frequency** のプルダウンから **Quarterly** を選択します。

⑤ **Submit** をクリックし、ダウンロードを実行します。

🚩 経済指標: EXPLORE 検索の階層について

Economic データの階層を理解することで、より早く経済指標を検索することができます。

Exploring Categories を開き、Economics を選択すると、次の項目が次の階層として表示されます。それぞれの項目を確認し、検索データにより近い項目を展開していきます。



🔗 経済指標の階層:

1. Key Indicators by Country: 各国の主要指標(国別)の一覧表示
2. Key Indicators by Economic Category: 各国の主要指標(項目別)の一覧表示
3. Thomson Reuters International Comparable Economics (TRICE): 単位、通貨、季節調整などが統一基準で計算された各国の主要指標
4. Reuters News Indicators: ロイターニュースで取り上げられた主要指標
5. Reuters Polls: ロイター予想
6. Point in Time (use with datatypes): 経済指標の速報値、改定値、確定値データ

7. National Sources: 各国の統計局データ

8. International Historical Sources: 国際機関の統計データ

9. International Forecast & Surveys: 経済予想、サーベイデータ

10. International Industry Associations: 国際業界団体の経済データ

11. International Business & Governance Indicators: 国際事業、政府機関の統計データ

🔗 展開した階層の確認:

検索結果の一覧から再び Exploring の階層に戻りたい場合は、画面上部の検索フィールドをクリックします。階層を自由に戻り、再び検索を開始することができます。



📖 **例題 8** : 米国の失業率の年齢別データをそれぞれ 2008 年 1 月より Quarterly で出力します。

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box with the following details:

- 1** Series/List: USUR255.Q,USUR253.Q,USUR354.Q,USUR455.Q
- 2** Datatypes/Expressions: (blank)
- 3** Start Date: 2008/01/01
- 4** Frequency: Quarterly
- 5** Submit button

Options section:

- ☐ Display Custom Header
- ☒ Display Row Titles
- ☒ Display Column Titles
- ☐ Display Headings
- ☐ Transpose Data
- ☒ Display Code
- ☐ Display Currency
- ☐ Display Latest Value First
- ☐ Hyperlink to Series Metadata
- ☐ Hyperlink to Datatype Definition
- Display Expression: ☐ 1st Series, ☒ 1st Series & Description
- Display Datatype: ☒ Description, ☐ Mnemonic
- ☒ Embed Formula
- TS Format: ☐ Yearly-Date, ☒ Quarterly-Date

<出力手順>

はじめに Thomson Reuters Datastream メニューから **Time Series Request** を選択し、入力フォームを開きます。

- 1** **Find Series** をクリックし、ナビゲーターを使用して、米国失業率の年齢別データのコードを検索をします。

📖 ナビゲーターの検索手順

- ナビゲーター画面の左上にある **RECENT SEARCHES** ボタンをクリックし、例題 7 で検索した G7 失業率の URL をクリックします。
(詳細 p.19 参照)
- 結果一覧より **United States** の列をハイライトし、詳細画面を開きます。詳細画面の **Explorers > Show 8 additional explorers** のリンクをクリックし、全ての explorer を展開します。**>> Press Release >> Employment Situation>>...>>Unemployment Rate** のリンクをクリックし、関連データの画面を開きます。
- 結果一覧より、**CIVILIAN UEMPLOYMENT- BOTH SEXES(25 TO 54 YRS)**とその次の 3 つの level データにチェックを入れ、Use をクリックして検索を実行します。

♠ Indentation Level とは・・・

経済データの検索時に Refine Search で使用できる項目の一つです。データにより大分類・中分類・小分類などのレベルに分けて表示し、各レベルで絞り込み検索することができます。

- 2** **Datatypes** はブランクにします。
- 3** **Start Date** に 2008/1/1 と入力し、**End Date** はブランクにします。
- 4** **Frequency** のプルダウンから **Quarterly** を選択します。
- 5** **Submit** をクリックし、ダウンロードを実行します。

📖 **例題 9** : ASEAN の鉱工業生産指数を過去 5 年間出力します。(TRICE のデータベースを使用します。)

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box with the following elements and annotations:

- 1**: Points to the 'Series/List' dropdown menu containing the text 'IDCIND..G,MYCIND..G,PHCIND..G,SPCIND..G,TWCIND..G,THC'.
- 2**: Points to the 'Datatypes/Expressions' dropdown menu, which is currently blank.
- 3**: Points to the 'Start Date' dropdown menu, which is set to '-5Y'.
- 4**: Points to the 'Frequency' dropdown menu, which is set to 'Monthly'.
- 5**: Points to the 'Submit' button at the bottom right of the dialog.

Other visible elements include the 'Find Series' button, 'History' button, 'Datatypes' button, 'Options' section with various checkboxes (e.g., 'Display Row Titles', 'Display Column Titles'), and 'Display Expression' options.

＜出力手順＞

はじめに Thomson Reuters Datastream メニューから **Time Series Request** を選択し、入力フォームを開きます。

1 **Find Series** をクリックし、ナビゲーターを使用して ASEAN の鉱工業生産指数を検索をします。

📖 **ナビゲーターの検索手順**

- 1) ナビゲーター画面の左上にある **EXPLORE** ボタンをクリックし、Exploring Categories を開きます。
- 2) **Economics > Thomson Reuters International Comparable Economics > Industry Sector: Total Industrial Production Index** の順に展開し、結果画面を開きます。
- 3) **Refine Search** の Market を Country Group で絞り込みます。Market 欄の右下の Country Group のリンクをクリックし、オプション画面より **ASEAN Group** を選択します。
- 5) 結果一覧の全ての項目にチェックを入れ、Use をクリックして検索を実行します。又は、チェックボックスの左横の All のリンクをクリックし、検索を実行します。

2 **Datatypes** はblankにします。

3 **Start Date** に-5Y と入力し、**End Date** はblankにします。

4 **Frequency** のプルダウンから **Monthly** を選択します。

5 **Submit** をクリックし、ダウンロードを実行します。

♠ **TRICE データとは・・・**

TRICE は、単位、通貨、季節調整などが、統一基準で計算された各国の主要経済指標のデータベースです。世界 58 か国～105 か国(指標によって異なります)の主要経済指標の基準化された値に加え、前年比、前期比、一部の指標においては GDP に占めるウエイトも提供しております。

📖 **例題 10** : MSCI USA の各セクターの EPS12 か月予想を過去 1 年間出力します。※セル参照機能を利用し出力します。

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box. The 'Request Details' section contains the following fields and buttons:

- Series/List**: A text box containing 'Sheet1!\$A\$1:\$A\$11' with a callout 2 pointing to it. To its right is a 'Find Series' button with a callout 1 pointing to it.
- Datatypes/Expressions**: A text box containing 'A12FE' with a callout 3 pointing to it. To its right is a 'Datatypes' button with a callout 4 pointing to it.
- Start Date**: A dropdown menu set to '-1Y' with a callout 5 pointing to it.
- Frequency**: A dropdown menu set to 'Weekly' with a callout 6 pointing to it.
- Options**: A section with various checkboxes and radio buttons. The 'Display Row Titles' and 'Display Column Titles' checkboxes are checked. The 'Display Datatype' section has 'Description' selected. The 'Embed Formula' checkbox is checked. The 'TS Format' section has 'Yearly-Date' and 'Quarterly-Date' options.
- Buttons**: At the bottom are 'Help', 'Default Option', 'Submit' (with callout 6), and 'Cancel' buttons.

<出力手順>

① はじめにコードの検索をするために Datastream MSCI IGA Sector Lookup の エクセルファイルを開きます。

📖 コードの絞り込み方法

- 1) LOOKUP のシートを開き、画面左上の国地域のプルダウンから **USA** を選択します。
- 2) 次に H 列の Level のプルダウンを開き、**M1** だけにチェックを入れ OK で実行します。
- 3) M 列の IGA コード(11 セクター)をコピーし、データを取得するエクセルへ貼り付けます。

続いて、Thomson Reuters Datastream メニューから **Time Series Request** を選択し、入力フォームを開きます。

② Series/List の入力領域の横の  ボタンをクリックし、①で貼り付けた IGA のコードを全て範囲指定し、OK をクリックします。入力領域には範囲指定したパスが入力されます。

▲ 注意:セル参照機能を使用する際は、Options の“Cell Referencing”にチェックを入れる必要があります。

③ **Datatypes** へ EPS12 か月予想のデータタイプ:**A12FE**と入力する。
(検索方法については次項参照)

④ **Start Date** に-1Y と入力し、**End Date** は空白にします。

⑤ **Frequency** のプルダウンから **Weekly** を選択します。

⑥ **Submit** をクリックし、ダウンロードを実行します。

I/B/E/S GLOBAL AGGREGATE (IGA) について

IGA とは、アセットアロケーションやバリュエーション評価のための定量分析ツールです。個別レベルの予想データを元に市場、産業、指数レベルのボトムアップの収益予想データを提供しています。指数や国に含まれる全ての株式の予想を加重し、市場の収益、成長率、PER 予想を組み立てています。

データの更新頻度:

月次データは、毎月第 3 金曜日の翌週の火曜日に更新されます。(この値は、毎月 3 金曜日の前日の木曜日の NY クローズ時のデータを用いて算出されます。)

週次データは、毎週火曜日に更新されます。(この値は、毎週木曜日に前週木曜日のデータを用いて算出されます。) ※2006 年 3 月より提供

IGA コードの検索:

IGA のコードはすべて”@”から始まります。コードはナビゲーターを使用して、検索します。

ナビゲーターの検索手順

- 1) ナビゲーターを開き、画面の左上にある **EXPLORE** ボタンをクリックし、Exploring Categories を開きます。
- 2) **Equity Indices > IBES Global Aggregates > 国／地域**の順に展開し、結果画面を開きます。

この他、Free Text Search や株式指数の詳細画面からも検索できます。

MSCI GICS コードのコード体系について:

GICS の IGA コードは、次の法則で構成されています。

例) MSCI Kokusai / エネルギーセクター の場合

@: **KKM1E1**

XX : 国・地域コード

XX : セクター・産業グループ・産業
(**M1**: セクター / **M2**: 産業グループ / **M3**: 産業)

XX: 分類コード

IGA のデータタイプコードの検索:

IGA のデータタイプコードはナビゲーターを使用して検索します。

ナビゲーターの検索手順

- 1) 入力フォーム上の **Datatypes** をクリックし、ナビゲーターを開きます。
- 2) 画面左上のカテゴリのプルダウンを展開し、**Equity Indices** を選択します。
- 3) Refine Search の Hierarchy にある **Display Hierarchy > IBES Global Aggregates** の順に展開し、下記のとおり、検索したいデータにより階層を展開して項目を選択します。

>> Actuals: 実績値データ

>> Forecast: 予想値データ

>> 各予想項目 (EBG, EPS, BPS など)

>> Calendarised Fiscal Year 1: 今期予想 (暦年)

>> Calendarised Fiscal Year 2: 来期予想 (暦年)

>> Calendarised Fiscal Year 3: 再来期予想 (暦年)

>> Long-Term: 長期成長予想

>> 12 Month: 12 ヶ月先予想

>> 18 Month: 18 ヶ月先予想

暦年化について:

企業レベルのデータは、集計前に暦年化されます。

決算期末がその年の 1 月～5 月の企業は前年の集計に加え、6 月～12 月の企業は該当年の集計に加えます。

5 月を区切りとして年度を分けることから、5 月ロールバックを適用すると言います。

尚、日本企業については多くが 3 月決算のため、日本では 3 月を期末とする暦年基準で計算され、“8 月ロールバック”が適用されます。

データストリーム関数

データストリームのデータは、関数や計算式を用いて自由に加工し、出力することができます。データストリームでは、加工・分析に便利な関数を数多く提供しています。

データストリーム関数の入力形式

データストリーム関数の基本入力フォーマットは以下の形式です。

関数記号#(X, パラメータ)

- 関数記号#: 関数コード(PCH#, MAV#など)
- 変数 X: シリーズコードや計算式の代わりに変数の X を立てます。シリーズコードや計算式をそのまま入力することもできます。
- パラメータ(引数): 算出する条件を表す変数です。関数により用いるパラメータは異なりますが、主に計算する日付や期間、定数などを入力します。

例) PCH#(X,1M) : 1ヶ月の騰落率

MAV#(X, 3M) : 3ヶ月の移動平均

DFO Expression の利用:

Thomson Reuters Datastream メニューから **Expression** を選択し、DFO Expression を開きます。

Expression Picker: データストリーム関数やユーザーがオリジナルで作成した計算式などを検索、利用することができます。

Expression Builder: データストリーム関数を利用し、ユーザーがオリジナルの計算式などを作成することができます。作成した計算式にはコードが割り当てられ、簡単に利用できるようになります。

Function Selector/help の利用:

Static Request/Time Series Request の各入力フォームにある Function Selector/help ( ボタン) を利用して、関数の検索ができます。(次項参照)

Datastream 主要関数一覧

関数	関数コード	入力例	備考
平均	AVG#	AVG#(1/4/10,31/3/17) ※	指定期間の平均
移動平均	MAV#	MAV#(X,3M)	3ヶ月の移動平均
期間平均	TPA#	TPA#(X,1M,I)	1か月の平均
特定日間の平均	AVGA#	AVGA#(X,1/1/16,31/12/16)※	2016年の平均値
カレンダー平均	CWA#, CMA# CHA#, CYA#	CWA#(X), CMA#(X) CHA#(X), CYA#(X)	週間平均/月間平均 半期平均/年間平均
カレンダー合計	CWS#, CMS# CHS#, CYS#	CWA#(X), CMA#(X) CHA#(X), CYA#(X)	週間合計/月間合計 半期合計/年間合計
変化値	ACH#	ACH#(X,1Y)	1年前からの変化値
特定値からの変化値	ACHV#	ACHV#(X,15/1/14) ※	2014/1/15 から前日迄の 変化値
変化率	PCH#	PCH#(X,1Y)	前年同期比
特定値からの変化率	PCHV#	PCHV#(X,YTD)	年初来変化率
特定日の値	VAL#	VAL#(X,MTE)	前月最終営業日の値
ラグとリード	LAG#	LAG#(X,3M)	値を3ヶ月先にずらして 表示する
リベース	REB#	REB#(X,1/09/08)※	2008/9/1 を100とした 指数値
小数点以下桁数	DPL#	DPL#(X,3)	小数点以下3桁まで 表示する
日付表示の調整	ALI#	ALI#(X,VAL)	日付表示を月末日とする

※データストリーム関数式で利用する日付形式はヨーロッパ形式(dd/mm/yy)に限ります。

📖 **例題 11** : 例題 2 で出力したデータを編集し、TOPIX の株式指数の前年同期比を過去 1 年間出力します。

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box. The 'Request Details' section contains the following elements:

- Series/Lists**: A dropdown menu showing 'TOKYOSE' (annotated with a blue circle 1).
- Datatypes/Expressions**: A dropdown menu showing 'PCH#(X,1Y)' (annotated with a blue circle 2).
- Start Date**: A dropdown menu showing '-1Y' (annotated with a blue circle 3).
- Frequency**: A dropdown menu showing 'Daily' (annotated with a blue circle 4).
- End Date**: An empty text field.
- Options**: A section with various checkboxes and radio buttons for display and format options.
- Buttons**: 'Help', 'Default Option', 'Submit' (annotated with a blue circle 5), and 'Cancel'.

<出力手順>

例題 2 で出力したデータの DS 関数が入っているセルを選択し、Thomson Reuters Datastream メニューから **Edit Request** をクリックして、例題 2 で使用した入力フォームを開きます。

既存の入力フォームを編集する場合は、修正箇所のみ変更します。

- 1 **Series/Lists** は変更しません。
- 2 **Datatypes** の入力領域へ関数の計算式をを直接入力します。

入力する計算式: **PCH#(X,1Y)**

🔗 変化率の関数が分からない場合:
Function Selector/help を利用して検索することが出来ます。

💻 **Function help** の検索手順

- 1) 入力領域の左横の **f_x** ボタンをクリックし、help の画面を開きます。
- 2) **Group** のプルダウンを展開し、**Changes** を選択します。

The screenshot shows the 'Function help' dialog box. The 'Search For Function' section has 'Function' selected. The 'Group' dropdown menu is open, showing a list of categories: All, Average, Sums, **Changes** (highlighted with a yellow star), Display, Technical, Statistical, Mathematical, Logical, and from value (date). The 'Select a Function' table below lists various functions and their descriptions.

- 3) Select a Function から PCH# {Expression, Period} を選択し、OK で検索を実行します。

- 3 **Start Date** へ-1Yと入力し、**End Date** はblankにします。
- 4 **Frequency** を Daily へ変更します。
- 5 **Submit** をクリックし、ダウンロードを実行します。

例題 12 : S&P500 と TOPIX の株価指数を 2017 年 9 月 =100 として指数化し、2017 年 9 月から直近までの値を日次で出力します。

The screenshot shows the 'Time Series Request' dialog box. The 'Request Details' section contains the following fields and annotations:

- Series/List**: A dropdown menu with 'S&PCOMP,TOKYOSE,' selected. A blue circle with the number '1' is next to it.
- Datatypes/Expressions**: A dropdown menu with 'REB#(X,01/09/17)' selected. A blue circle with the number '2' is next to it.
- Start Date**: A text field with '2017/9/1' entered. A blue circle with the number '3' is next to it.
- Frequency**: A dropdown menu with 'Daily' selected. A blue circle with the number '4' is next to it.
- End Date**: A text field that is empty.

The 'Options' section contains several checkboxes and radio buttons:

- ☐ Display Custom Header
- ☒ Display Row Titles
- ☒ Display Column Titles
- ☒ Display Headings
- ☐ Transpose Data
- ☒ Display Code
- ☐ Display Currency
- ☐ Display Latest Value First
- ☐ Hyperlink to Series Metadata
- ☐ Hyperlink to Datatype Definition
- ☒ Embed Formula
- ☐ TS Format
 - ☐ Yearly-Date
 - ☐ Quarterly-Date
- ☒ Auto Refresh
- Display Expression**:
 - ☐ 1st Series
 - ☒ 1st Series & Description
- Display Datatype**:
 - ☒ Description
 - ☐ Mnemonic

At the bottom of the dialog, there are three buttons: 'Help', 'Default Option', and 'Submit'. A blue circle with the number '5' is next to the 'Submit' button.

<出力手順>

はじめに Thomson Reuters Datastream メニューから **Time Series Request** を選択し、入力フォームを開きます。

1 Series/Lists に S&P500 と TOPIX のコードを入力します。

入力するコード: S&PCOMP,TOKYOSE

2 Datatypes 関数の計算式を直接入力します。

入力する計算式: REB#(X,01/09/17)

3 Start Date へ 2017/9/1 と入力し、**End Date** は空白にします。

▲ 特定日の日付入力について

1. 関数の計算式に使用する日付は、必ず **dd/mm/yy** の形式で入力します。
2. Time Series Request や Static Request の入力フォームに入力する日付は、パソコンのコントロールパネルで指定されている形式で入力します。

例) yyyy/mm/dd ・ dd/mm/yyyy など

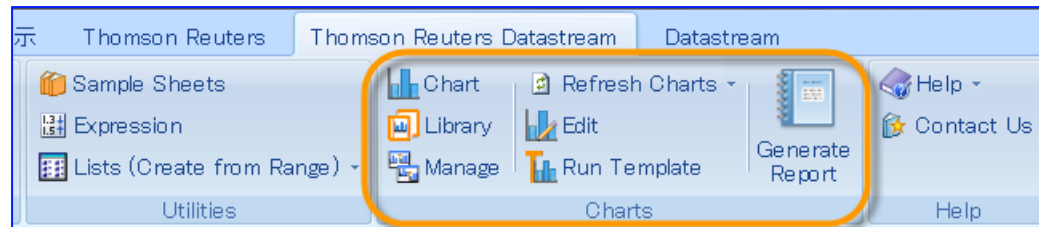
4 Frequency は Daily のままとします。

5 Submit をクリックし、ダウンロードを実行します。

Datastream Charting: チャート機能

Datastream charting は、ブラウザーベースで設計されたチャート機能です。作成したチャートは、Microsoft オフィスアプリケーションに簡単にエクスポートすることができ、ワンクリックで更新することが出来ます。また、あらかじめ作成・保存されている多数のチャートやテンプレートを自由に使用することが出来ます。

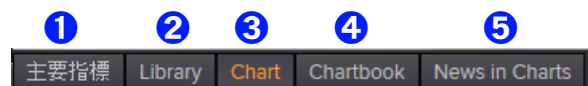
🚩 Datastream Charting メニュー



- **Chart:** チャートの新規作成、編集
 - **Library:** 保存されたチャート、スタイル、テンプレートの呼び出し
 - **Manage:** 作成したチャートの管理(更新・修正・削除)
 - **Refresh:** エクセルにエクスポートされたチャートの更新
 - Refresh All: ブック内の全てのチャートの更新
 - Refresh Selected: 選択したチャートの更新
 - Schedule Refresh: 更新スケジューラーの設定
 - **Edit Selected:** 選択したチャートの修正
 - **Run Template:** 保存されたテンプレートの適用
 - **Generate Report:** Microsoft Word、PDF でカスタマイズレポートを自動作成するチャート・レポートツール
- ♣ Datastream Charting を起動するときは、**Chart**、もしくは **Library** のメニューをクリックしブラウザを開きます。

🚩 Datastream Charting の各メニュー

Datastream Charting の画面は、次のメニューにより構成されており、メニューバーを利用して画面を切り替えます。



① 主要指標: 国別、ならびにカテゴリーの主要指標を一覧表示します。収録頻度、出所等の直近値、変化率が一覧表示されます。

▲ このメニュー画面では、ナビゲーターの Key Indicator by Country、及び Key Indicator by Economic Category に分類されているデータが表示されています。

② Library: 作成したチャート、スタイル、テンプレートが Library に保存され、ツリー形式で表示されます。また、あらかじめ作成された多様なサンプルチャートやユーザーが作成したチャートもまた Library に保存されています。

③ Chart: 新規チャートの作成・編集をします。作成したチャートは、Microsoft オフィスアプリケーション (Word, Excel, PowerPoint など) に転送し、更新や修正が可能です。以下の基本チャートならびにテクニカル・チャートを作成することができます。

作成可能なチャート:

折れ線チャート / 棒チャート / スキャターチャート / 面チャート / パイチャート

ろうそく足チャート / OHLC チャート / ファンチャート / オーバーレイチャート

積み重ねチャート (棒&面) / ドーナツチャート など

④ Chartbook: Fathom Consulting 社から提供されているチャートが保存されています。主要国のマクロチャートやマーケットデータをベースにした豊富なチャートが多数収録されています。またテーパリング、アベノミクスといったテーマ別のチャート集も充実しています。

⑤ News in Charts: 直近の Chart Book で取り扱ったテーマのチャートがサムネイルで表示されています。

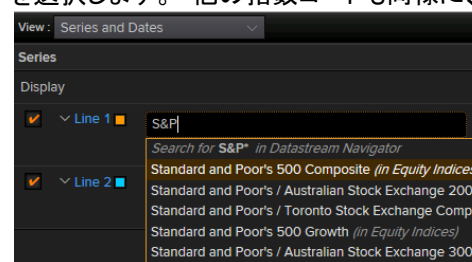
例題 13： 次の 5 つの各国のベンチマーク株価指数を 2008/1/1=100 とした指数化チャートを作成する。

出力指数: S&P500、MSCI ワールド、FTSE100、DAX30、TOPIX



<作成手順>

- 1 Datastream Charting のツールバーの  ボタンをクリックし、新規チャートを開きます。
- 2 各株式指数のコードを入力します。はじめに Line1 の横の入力領域へ”S&P”と入力し、予測結果より”Standard and Poor’s 500 composite”を選択します。他の指数コードも同様に、Line2 より順に入力します。



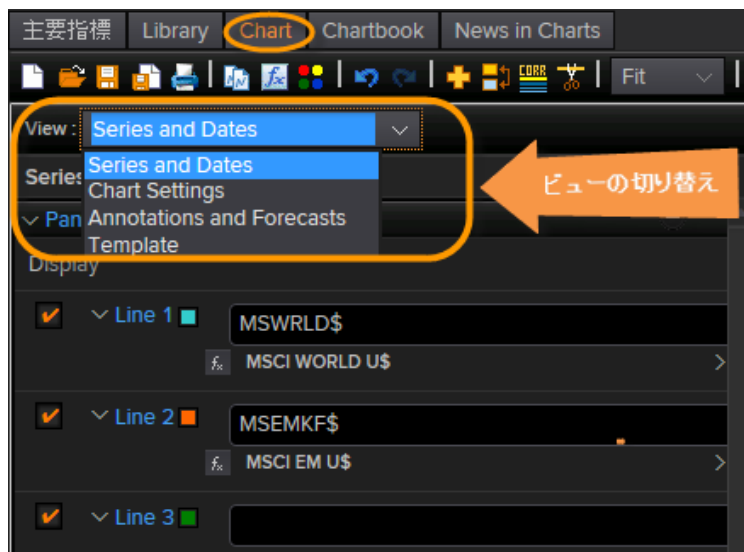
- ♠ ナビゲーターを利用して、複数の系列を一度にチャートへ挿入することも出来ます。ナビゲーターへのアクセスは、各 Line の入力領域の右下にある > 矢印にカーソルを合わせ、サブメニューから **Find New Series** をクリックします。
- 3 X 軸を調整します。画面左下の **Dates** の **Start** の枠に直接 2008/1/1 と入力し、Enter キーを押します。
 - ♠ 期間指定をする場合は、**Date Range** > の矢印にカーソルを合わせ、サブメニューから期間を選択します。
 - 4 出力したチャートを指数化するため、画面左下の All Series の  ボタンにカーソルを合わせ、関数の一覧より **Rebase Series > To 100** を選択します。
 - 5 画面下部の凡例をダブルクリックし、凡例の内容を任意で修正します。
 - 6 タイトルを入力します。画面左上の View を **Chart Settings** へ変更し、Chart Settings のリンクをクリックします。編集画面が開いたら、**Title Text/Subtitle Text** へそれぞれ任意でタイトルを入力し、OK ボタンで実行します。(⑤⑥については次項参照)

Chart

Chart 画面は、複数のビューに分かれており、ドロップダウンから表示したいビューを選択し、画面を切り替えて使用します。

Chart 画面の各ビュー:

- Series and Dates:
チャートの基本設定を行います。データのコード、期間等を設定します。
- Chart Settings:
線種、凡例、X・Y 軸、タイトル等のチャートのフォーマット設定を行います。
- Annotations and Forecasts:
チャートの注釈やテキストの挿入、または予想値の入力などを行います。
- Templates:
テンプレートとして保存されたチャートの修正を行います。

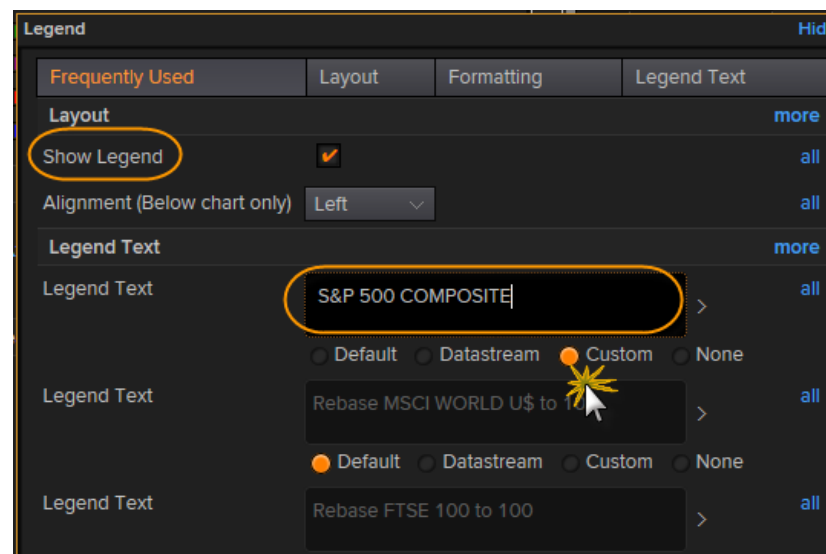


凡例の変更:

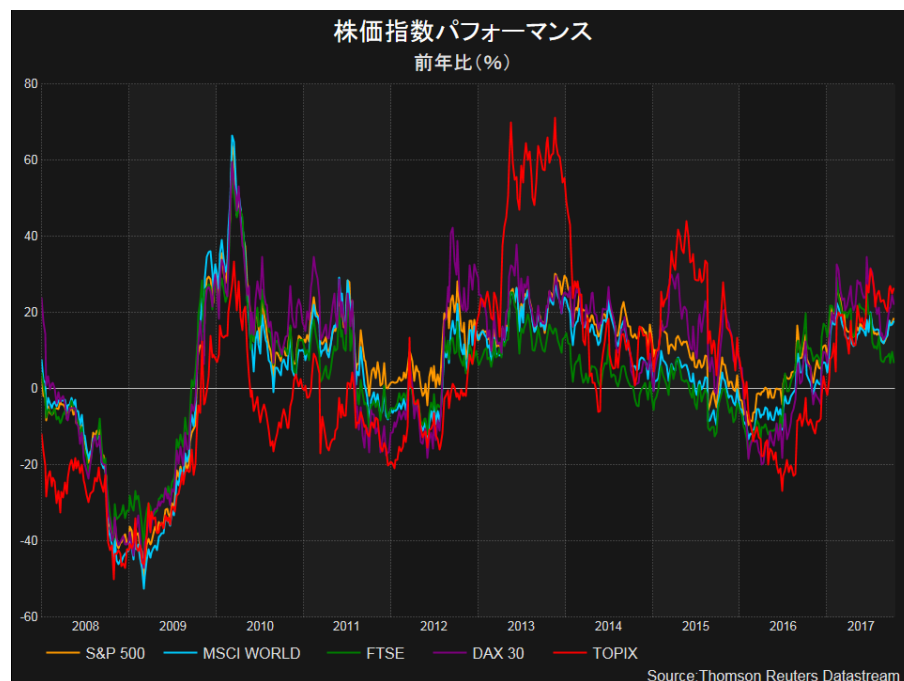
凡例の変更をする場合は、View の Chart Settings を開き、Legend Settings をクリックして凡例の編集画面を開くか、またはチャート上に表示されている凡例をダブルクリックしても同様に編集画面を開くことが出来ます。

編集画面:

- Show Legend: 凡例の表示・非表示を設定します。
- Alignment: 凡例の表示する位置を設定します。
- Legend Text: 凡例の内容を編集します。
Default: データストリームの系列名を表示します。
Datastream: データストリームのコードを表示します。
Custom: ユーザーオリジナルの凡例を設定します。(日本語可)
None: 凡例を無しとして設定します。



例題 14：例題 13 で出力したチャートを前年比のチャートに変更し、保存する。



データの表示:

Chart 画面ではワンクリックで、チャートとデータの表示を切り替えることができます。Chart 画面の右上端の Chart / Data のボタンをクリックすると、画面の表示がそれぞれ切り替わり、簡単にデータの確認をすることができます。

Data - 株価指数パフォーマンス >		Short Code:		Go	Chart	Data																		
Pane 1 <table> <tr> <th>Date</th><th>S&P 500 ></th><th>MSCI WORLD ></th><th>FTSE ></th><th>DAX 30 ></th><th>TOPIX ></th></tr> <tr> <td>2008/01/01</td><td>3.631</td><td>7.72868</td><td>4.312</td><td>24.053</td><td>-11.765</td></tr> <tr> <td>2008/01/08</td><td>-1.982</td><td>2.1808</td><td>0.722</td><td>17.495</td><td>-16.538</td></tr> </table>							Date	S&P 500 >	MSCI WORLD >	FTSE >	DAX 30 >	TOPIX >	2008/01/01	3.631	7.72868	4.312	24.053	-11.765	2008/01/08	-1.982	2.1808	0.722	17.495	-16.538
Date	S&P 500 >	MSCI WORLD >	FTSE >	DAX 30 >	TOPIX >																			
2008/01/01	3.631	7.72868	4.312	24.053	-11.765																			
2008/01/08	-1.982	2.1808	0.722	17.495	-16.538																			

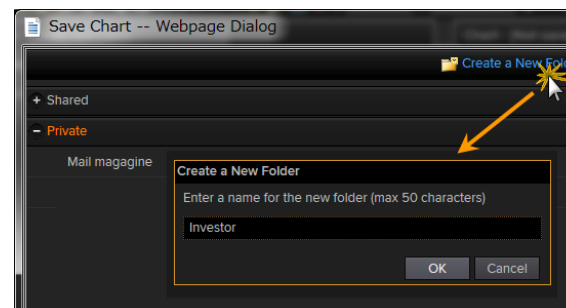
<作成手順>

- 1 Datastream Charting 例題 13 で作成したチャートを開きます。
- 2 リベースされたチャートを変化率のチャートへ変更します。まず、画面左上の View を Series/Dates にし、左下の All Series の ボタンにカーソルを合わせ、関数の一覧より %Percentage Change > 1Y を選択します。
- 3 サブタイトルの 2008=100 を前年比に変更します。

<保存手順>

作成したチャートは、次の手順で Library に保存することが出来ます。

- 1 Datastream Charting のツールバーの ボタンをクリックし、Save Chart を開きます。
- 2 保存先を作成します。まず Private フォルダーを選択後、この下にサブフォルダーを作成するため、右上の Create a New Folder をクリックします。フォルダー名の入力画面へ名前を入力し、OK でサブフォルダーを作成します。



- 3 チャートを保存します。②で作成したフォルダーを選択後、画面下部の Name の入力領域へチャート名を入力します。最後に OK をクリックし、保存を完了します。

チャートとデータのエクスポート

作成したチャートは、Microsoft オフィスアプリケーション(Excel、Word、Power Point)へそれぞれエクスポートをすることができます。

3つのエクスポート形式:

Datastream Charting のツールバーより、次の3つの形式でエクスポートを
選択することができます。

① チャートオブジェクトのエクスポート

次のツールバー  のいずれかのボタンをクリックし、Excel、Word、Power Point へチャートをエクスポート後、更新・修正が可能です。
各オフィスアプリケーション上での転送先のファイル、位置ならびにファイル形式等、詳細な設定が可能です。

② 画像ファイルのエクスポート

ツールバーの  ボタンをクリックし、画像ファイル(JPEG、GIF 等)として、保存することができます。図のサイズの調整、透明化等の設定をすることができます。

③ データのエクスポート

チャートの数値データをエクセルへ簡単にエクスポートすることができます。
数値は、テキスト形式、または更新可能なリンク形式を選択することができます。

更新可能なリンクを選択すると、Datastream のエクセルアドインから更新、編集を行うことができます。

データの出力は、 ボタンで縦向きを、 ボタンで横向きを指定し、エクスポートすることができます。

チャートのエクスポートと更新方法:

作成したチャートは**必ず Library へ保存後**、エクスポートの手順に進みます。

<エクスポート手順>

- ① 保存したチャートを開き、ツールバーよりエクスポートするオフィス  より一つ選択してクリックします。
- ② Export Settings の画面にて、エクスポートの詳細内容を次のように設定します。
 - ・ Preformatted layouts: 出力するレイアウトの選択
※プルダウン横の Preview リンクより、イメージを確認することができます
 - ・ Export Size Options: 出力するチャートのサイズを設定
 - ・ Export charts to: Excel の場合、出力先のシートを選択
 - ・ Export charts to: Excel の場合、出力先のセルを選択
 - ・ Export charts format: 画像ファイルのフォーマット形式を選択
 - ・ Background: チェックを入れると、白抜きチャートを選択
- ③ 画面下の Export Chart をクリックし、エクスポートを実行します。

<出力したチャートの更新・編集>

出力したチャートは、Thomson Reuters Datastream メニューの Charts エリアのメニューを使用して、更新・編集を操作します。

更新  ボタンをクリックし、更新を実行します。プルダウンより、3つの更新形式を選択することができます。(詳細は p.30 参照)

編集  ボタンをクリックすると、自動的に Datastream Charting のブラウザーが開き、編集可能になります。
編集後は必ず上書き保存をし、更新をかけて変更を反映させます。

📊 サンプルチャートの利用

Datastream Charting には、あらかじめ作成された多様なサンプルチャートが収録されています。サンプルチャートは、Library の **Datastream** フォルダーや **Chartbook**、**New in Charts** の各メニューに保存されています。用途に合わせてチャートを選択・編集し、ご自身のオリジナルチャートとしてご利用いただくことが出来ます。

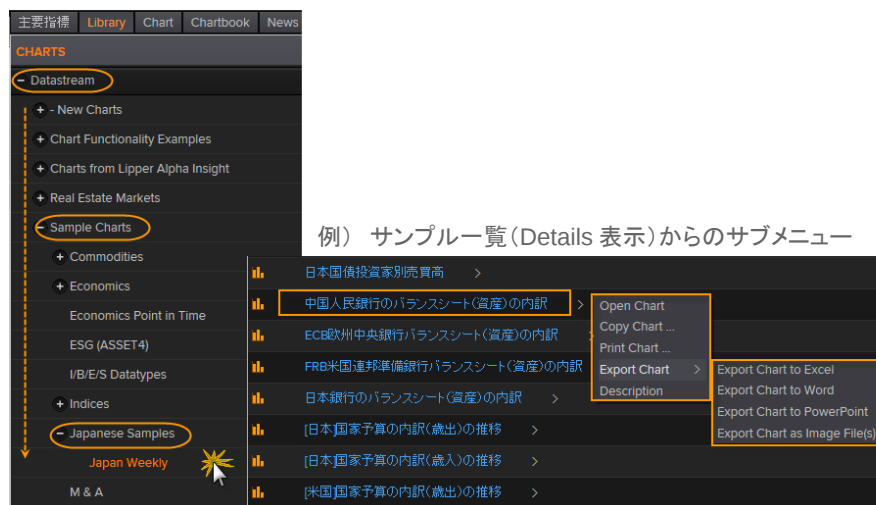
🔗 Library: 日本語サンプルチャート のご紹介

日本語サンプルチャートは、さまざまな国や地域、及びアセットを視点に独自のチャートを作成し、定期的に Library へアップデートしています。

✧ 保存場所

Datastream Charting: Library

Datastream > Sample Charts > Japanese Samples > Japan Weekly



Library に保存されたチャートは、一覧から簡単に開き、chart 画面で編集を実行したり、Library 画面から直接 Microsoft のオフィスアプリケーションへエクスポートすることが出来ます。

チャート名の横の 📊 マークをクリックすると、チャートのイメージを確認することが出来ます。

🔗 Library: チャート一覧の表示方法

Library 画面でサンプルチャートや保存したご自身のチャートを検索した場合、結果一覧は次の 3 つの形式で表示することが出来ます。



※画面右上の View より選択

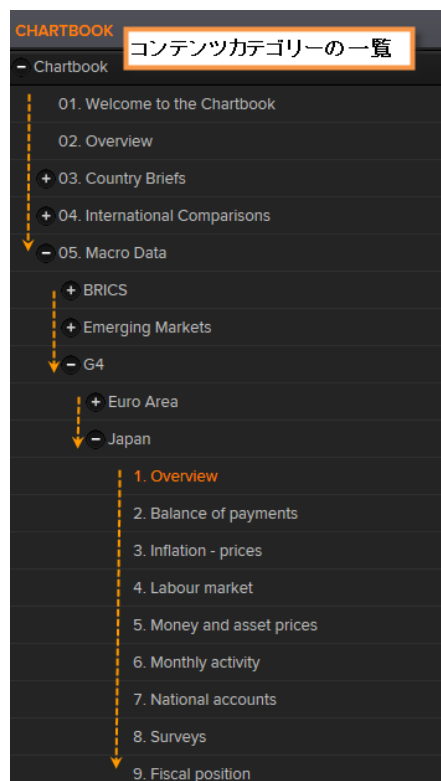
- Details: チャート名、チャート作成日、最終更新日時など詳細を表示
- List: チャート名を表示
- Thumbnails: チャートのイメージ画像を表示

📁 Chartbook: コンテンツの利用方法

チャートブックは、Fathom Consulting 社から提供されているチャートが保存されています。主要国のマクロチャートやマーケットデータをベースにした豊富なチャートが多数収録されています。またテーパリング、アベノミクスといったテーマ別のチャート集も充実しています。

✧ 保存場所

Datastream Charting: Chartbook > コンテンツ一覧

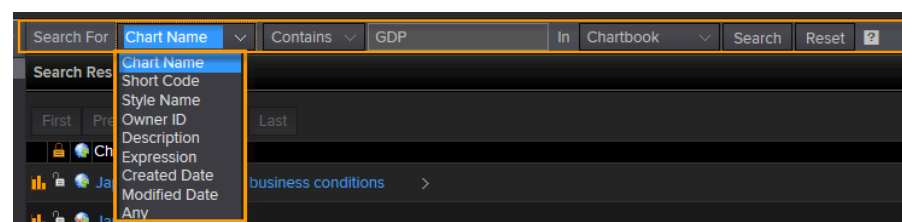


※細かく階層化されたマクロ・セミマクロチャートが保存されています。

🔍 チャートの検索方法:

Chartbook に保存されているチャートの検索は、カテゴリーの一覧からツリーを展開して探すほか、画面上部のツールバーにある Search 機能を利用して、検索することも出来ます。

Search for の検索エリアから、チャート名やチャートの定義、最終修正日などあらゆる検索項目にて検索をかけることが出来ます。
この機能は Library のチャート一覧でも利用することが出来ます



検索したチャートは前項の Library に保存されているチャート同様、Chart 画面で開き、編集を行ったり、この画面より直接 Microsoft のオフィスアプリケーションへエクスポートすることが出来ます。

参考資料 1

データ入力の基本ルール

コードについて

Datastream では、固有の系列コードを使用しデータを出力します。コードの検索については、ナビゲーターを使用します。

1) シリーズ・コード

個々の系列に対して割り当てられているコードです。DataStream では、この他に SEDOL コードや ISIN コード等も使用することが出来ます。

2) リストコード

複数のシリーズ・コードを 1 つのグループにまとめたリストに対するコードです。指数の構成銘柄を出力する場合などに使用します。またオリジナルのリストコードを作成しデータを出力することも可能です。

データタイプについて

データタイプとは、データの属性を表すものです。DataStream では必要に応じてデータタイプコードを入力します。

データタイプコードは、代表的なコードについては別冊 HANDBOOK を使用しコードを探します。より詳細なコードの検索については、ナビゲーターを使用します。

日付の入力方法

Datastream では日付の入力について、次の 2 つの書式を使用します。

1) 期間指定の場合の書式

入力形式: $-nnX$ (X には期間記号: D・W・M・Q・Y が入ります。)

(入力例) $-3M$: 3 カ月前 / $-10Y$: 10 年前 etc...

2) 特定日指定の場合の書式

入力形式: $yyyy/mm/dd$ または、 $dd/mm/yyyy$ etc...

 入力形式は、ご利用の端末の設定に準ずる形で入力します。

(入力例: 日本での入力形式で設定された端末の場合)

日次データ: 2017/1/4

月次データ: 2017/4 (日にちの入力を省略可)

四半期データ: 2017/6 (2017 年第 2 四半期の場合)

年次データ: 2017

参考資料 2

 テンプレートを使用したダウンロード: Thomson Reuters Datastream メニューから **New Request Table** をクリックし、リクエストテーブルを開きます。


THOMSON REUTERS

DATASTREAM

DFORestTable 3.0

8

Process Table

Add to Index

Help

Find Series

Press Ctrl + R to Process Table

On Open

Pre-Request Macro:

On Completion Macro:

On Completion:

Process Table

Refresh Charts

Refresh Chart Templ:

Display Details

Compatible options with AFO

Enable Sequencing

Support R:

Display De

Suppress

Use as "no

Update		Request Type				Format		Series Lookup			Datatype/Expressions		Start Date	End Date	Freq	
Y	YN	N	S	TS	TSL	L	CH	SelectFormat	Find Series			Datatypes			Daily	
1		2				3		4			5		6		7	

＜出力手順＞

- 1 Update ボタン:** 各リクエストの更新の有無を決定します。

Yes: データの更新 / No: データの非更新

Yes/No: ボタンをクリックする度に Yes/No が切り替わります。

2 Request Type ボタン: リクエストの種類を決定します。

S: Static Request 特定日データの出力

TS: Time Series Request 時系列データの出力

TSL: Time Series Request 時系列データ(リストコード使用)の出力

3 Select Format ボタン: データの表示形式を決定します。

Row/Column/Heading: p.6 を参照

Transpose: 行、列の入れ替え

Display Latest Value First: 時系列データを降順に表示

Display Expression Title as Title: 計算式をタイトルとして表示

Display Datatype as Description: データタイプ名をタイトルとして表示

Hyper Link to Metadata: p.6 を参照

4 Series Lookup: 系列コードを入力します。コードの検索は **Find Series** をクリックし、ナビゲーターを起動して検索をします。自作のリストコードを使用する場合は、 ボタンをクリックします。

5 Datatype/Expression/CAF/Search Lookup: データタイプ、関数、企業財務フォーマットを選択します。データタイプコードの検索は **Datatypes** をクリックし、ナビゲーターを起動して検索をします。関数は直接入力領域へ入力します。

6 Start Date/End Date: Time Series Request を選択した場合は、データの開始日と終了日を入力します。(日付の入力方法は p.26 を参照) **End Date** を空白にすると直近までのデータが出力されます。

Static Request を選択した場合は、**Start Date** へデータの特定日を入力します。

7 Freq ボタン: ドロップダウンからデータの出力頻度を選択します。

8 Process Table ボタン: データの更新をします。

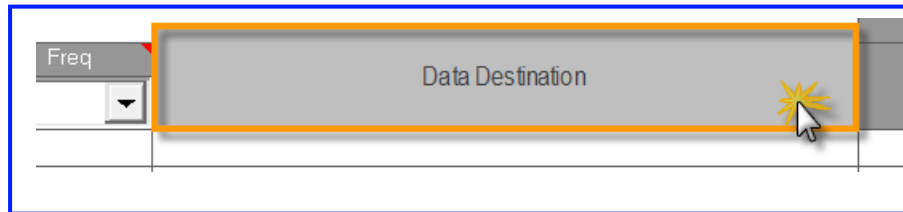
 データの更新をする前に必ず、更新したいリクエストの update 領域が Yes になっていることを確認します。(更新が不要なリクエストは No にします。)

🔗 Request Table: データの出力先の指定方法:

Request Table では、Data Destination の機能を使用してデータの出力先を任意で指定することが出来ます。

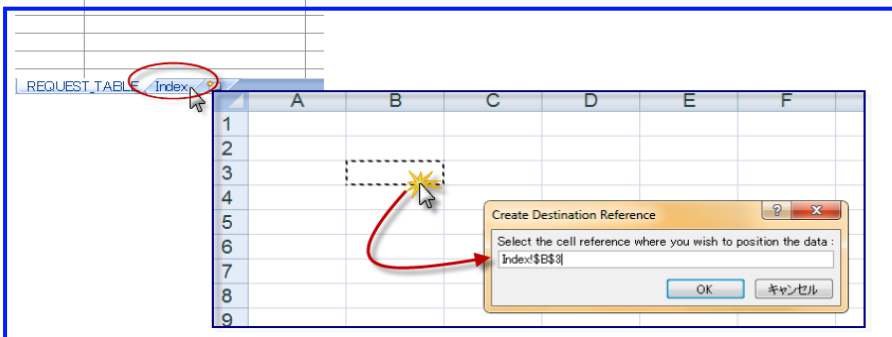
<設定手順>

- ① K 列にカーソルがあることを確認し、**Data Destination** のボタンをクリックします。



- ② **Create Destination Reference** のポップアップが上がります。
- ③ ポップアップが上がった状態で、出力先を指定し、**Create Destination Reference** の入力領域へ正しいパスが入ったことを確認の上、OK をクリックして出力先を決定します。

(同じブック内の別シートへ出力先を指定する場合)

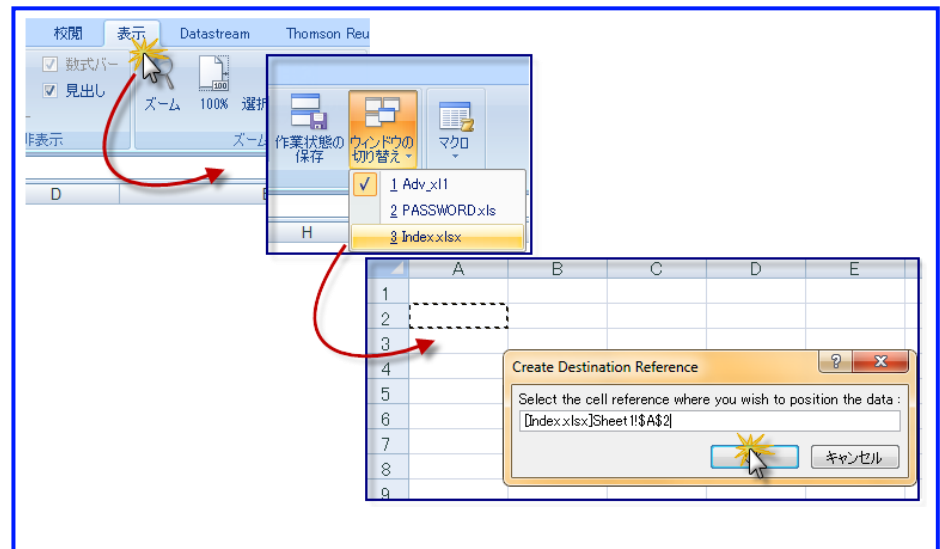


- ♣ 出力先のシート名は変更する予定がある場合は予め変更しておくことをお勧めします。

♣ 別ブックへ出力先を指定する手順

出力先は違うブックを指定することも出来ます。違うブックを指定する場合は、ポップアップが上がった状態で、エクセルメニューの**表示>ウインドウの切り替え** から別ブックを選択し、出力先を指定します。

(別ブックへ出力先を指定する場合)



- ♣ 別ブックへの指定をする場合は、必ず予めファイルの保存をしておきます。
- ♣ **Data Destination** へ出力先を指定しなかった場合、自動的に sheet1 を挿入し、A1 のセルからデータを出力します。

🔗 **Request Table:** お手持ちの銘柄リストを利用する場合:

<セル参照手順>

- 1) **Format** 欄まで通常通り入力し、**Series Lookup** の入力領域へ“=”を入力します。
- 2) そのまま銘柄リストを保存しているシート(又はブック)へ移動し、利用するコード(Datastream で直接利用可能なコード: ISIN、SEDOL など)を範囲指定し、Enter で決定します。

※ コードは別のブックに保存していても参照することが出来ますが、可能であれば、一枚のブックにまとめられた方が管理がしやすく、データの取得もスムーズに実行することが出来ます。

<別シートへ保存されたコードを参照した場合の入力例>

Update	Request Type								Format	Series Lookup
Y	Y/N	N	S	TS	TSL	CAF	CH	SCH	L	
YES			S						HRC	=ポートフォリオ!A2:A218

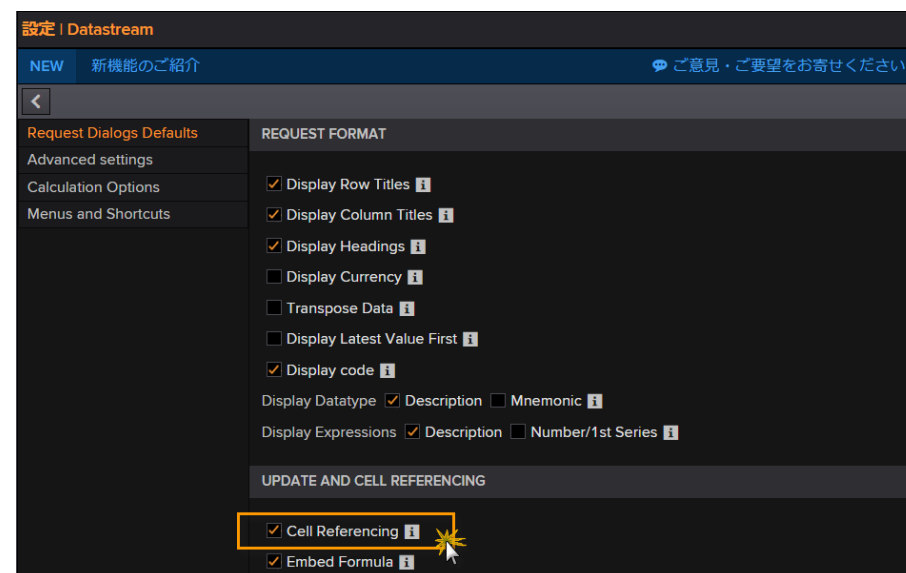
	A	B	C	D
1	NAME	ISIN	PRICE	
2	AJINOMOTO	JP3119600009	2218	
3	ANA HOLDINGS	JP3429800000	338.2	
4	ALPS ELECTRIC	JP3126400005	3350	
5	AMADA HOLDINGS	JP3122800000	1362	
6	ASAHI GROUP HOLDINGS	JP3116000005	4376	
7	ASAHI KASEI	JP3111200006	1106.5	
8	ASAHI GLASS	JP3112000009	1004	
9	YAHOO JAPAN	JP3933800009	480	
10	TREND MICRO	JP3637300009	5130	
11	NTT DATA	JP3165700000	5610	
12	NTT DOCOMO INC	JP3165650007	2707.5	

🔗 **Time Series Request/Static Request** で銘柄リストを利用する場合:

セル参照機能を利用することにより **Time Series Request** や **Static Request** でも手持ちリストを使用することが出来ます。

<セル参照の設定手順>

- 1) この機能を使用する前に、必ず Thomson Reuters Datastream メニューの **Options** メニューをクリックし、設定画面を開きます。



- 2) 画面下部の **Cell Referencing** にチェックを入れ、適用をクリックして設定を完了します。

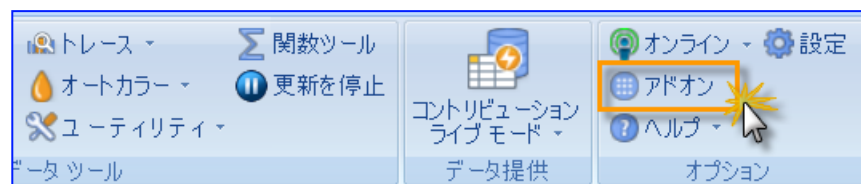
参考資料 3

🔧 Datastream for Office3.0 のアドオン作業方法

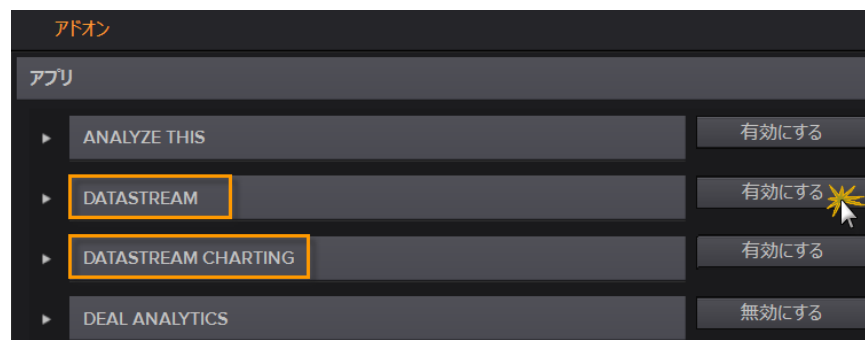
Datastream for Office 3.0 をご利用される場合は、必ず初期設定としてアプリのアドオン設定を行います。

＜アプリのアドオン作業手順＞

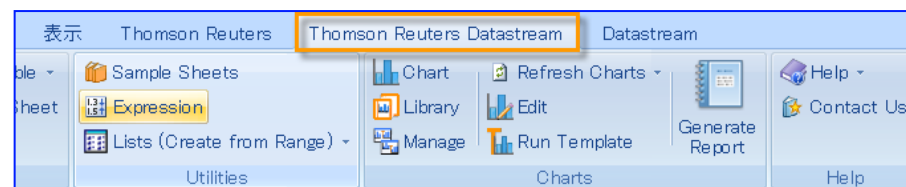
- 1) エクセルを開き、Thomson Reuters のタブを選択します。
- 2) Thomson Reuters メニューからアドオンを選択し、設定画面を開きます。



- 3) アドオンの設定画面が開いたら、アプリの一覧より **DATASTREAM** と **DATASTREAM CHARTING** の **有効にする** ボタンをクリックします。



- 4) インストールが開始されると、**インストール中** の表示に変わりますので、暫くお待ちください。完了後は、**再起動してください** と表示されるので、エクセルの再起動を行います。
- 5) 正常にアドオンが設定されると、メニューバーに Thomson Reuters Datasream のタブが追加されます。



サポート情報

データや操作方法については、カスタマーサポートまでお気軽にお問合せください。

 日本語サポート： 月～金 午前 9 時～午後 6 時

 英語サポート： 月～日 24 時間

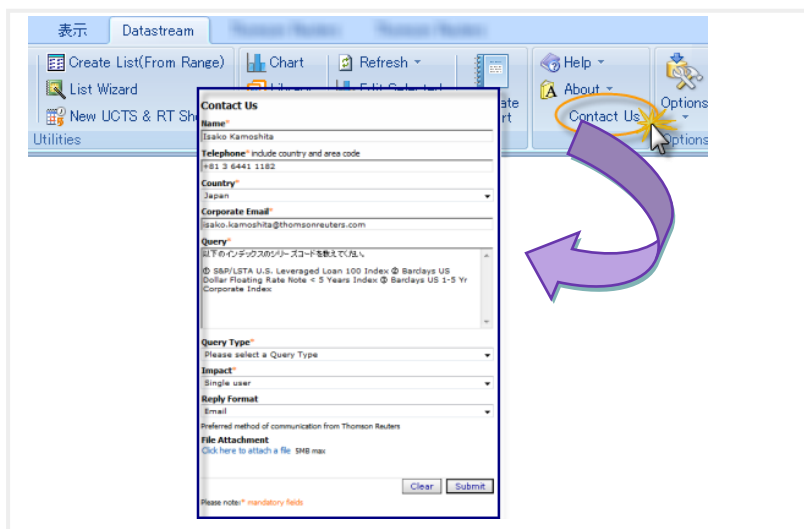
<お電話>

フリーダイヤル： 0120-161-916

<メールでのお問い合わせ>

Datastream メニューの **Contact Us** をクリックし、入力フォームを開きます。入力フォームへお客様情報と質問内容を明記の上、**Submit > Confirm** ボタンをクリックしてください。

(入力フォームは日本語の入力が可能です。)



© 2018 Refinitiv. All rights reserved.

リフィニティブが事前に書面により承認した場合を除き、手段又はプロセス（フレーミング又はこれと同等の手段を含む）の如何を問わず、リフィニティブ・コンテンツを再発行又は再配布することは、禁止されています。Refinitiv（リフィニティブ）および Refinitiv（リフィニティブ）のロゴは、リフィニティブ及びその関連会社の商標であり、登録商標となっています。

トムソン・ロイターが所有するすべての名称や商標（Thomson/トムソン、Reuters/ロイターおよび Kinesis ロゴを含む）は、トムソン・ロイターおよびその関連会社からライセンス許諾を受けて使用されています。

Refinitiv によるお客様の個人情報の収集、使用又は共有方法については、

[プライバシーステートメント](https://www.refinitiv.com/en/policies/privacy-statement.html) (<https://www.refinitiv.com/en/policies/privacy-statement.html>) よりご確認ください。

Visit [Refinitiv.com](https://www.refinitiv.com)